

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患政策研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究

令和 3 年度 総括研究報告書

研究代表者 内 木 宏 延

令和 4 (2022) 年 5 月

目 次

[I] 総括研究報告

アミロイドーシスに関する調査研究	1
研究代表者 内 木 宏 延	

[II] 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍	23
雑誌	24

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
 アミロイドーシスに関する調査研究班 総括研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者 内木 宏延 福井大学学術研究院医学系部門 分子病理学分野 教授

研究要旨 われわれは令和2～4年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展させること、(2) 改訂診断基準に基づき、令和3年度に予定されている次回難病法改正にあわせ臨床調査個人票を改訂すること、(3) 各病型診療ガイドライン・ケアマニュアルと共に、新規重症度分類を作成すること、(4) 関連学会と連携してAMED難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(5) 非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施することの5項目を目指す。今年度の成果を上記目的の番号と対応させて記す。(1) 全国9施設でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。昨年度集計後の1年間で1682件のコンサルテーションを受け付け、1290件の病型を確定した。(2) 全身性アミロイドーシス改定診断基準を作成し、関連学会の承認を得た後、令和2年3月に公表した。これを基に『概要、診断基準等』改定案を作成し、指定難病検討委員会に提出した。(3) 今回の『概要、診断基準等』、『臨床調査個人票』改訂では、重症度分類の改訂は行わないこととした。(4) 令和2年4月1日より『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』を開始した。登録開始以来、ALアミロイドーシス43症例、ATTRvアミロイドーシス82症例、ATTRwtアミロイドーシス884症例、計1,009症例の登録を終えた。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、12月現在、日本循環器学会認定100施設が参加している。(5) 熊本にて①患者・家族向け講演会「アミロイドーシスの診断サポート及び先進的な難病治療法」、②「道しるべの会」（FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会、③患者・家族向け講演会「眼アミロイドーシスの診療と眼をまもるための取り組み」をハイブリッド開催した。ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナー「進化するALアミロイドーシス治療」をウェブ開催した。

研究分担者

			腫瘍内科学分野 教授
安東由喜雄	長崎国際大学薬学部アミロイドーシス病態解析学分野 教授	小池春樹	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻脳神経病態制御学講座神経内科学 准教授
関島良樹	信州大学医学部内科学第三教室（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）教授	西 慎一	神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授
植田光晴	熊本大学大学院生命科学研究部脳・神経内科学分野脳神経内科学講座 教授	星野純一	虎の門病院腎センター内科 部長
島崎千尋	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター医局 院長	山田俊幸	自治医科大学医学部臨床検査医学講座 教授
飯田真介	名古屋市立大学医薬学総合研究院（医学）生体総合医療学講座・血液・	奥田恭章	道後温泉病院内科 院長
		小野賢二郎	金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学（脳神経内科学）

	教授
北岡裕章	高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門老年病・循環器内科学 教授
田原宣広	久留米大学医学部循環器病センター内科学講座（心臓・血管内科）教授
遠藤 仁	慶應義塾大学医学部循環器内科学教室 専任講師
大橋健一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科人体病理学分野 教授
畠山金太	国立循環器病研究センター病理部病理診断科 部長
安部正博	徳島大学大学院医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学 教授
鈴木憲史	日本赤十字社医療センター骨髄腫アミロイドーシスセンター 顧問
河野 和	熊本大学大学院生命科学研究部血液・膠原病・感染症内科学講座 助教
山本 卓	新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部 准教授
坂井健二	金沢大学附属病院 講師

A. 研究目的

われわれは令和2～4年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展させること、(2) 改訂診断基準に基づき、令和3年度に予定されている次回難病法改正にあわせ臨床調査個人票を改訂すること、(3) 各病型診療ガイドライン・ケアマニュアルと共に、新規重症度分類を作成すること、(4) 関連学会と連携してAMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(5) 非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施することの5項目を目指す。

本研究計画は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）の求める以下の課題を直接解決するものであり、厚生労働行政の施策に直接活用できる成果を期待できると考える。(a) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制の運用により、正確な早期診断や、適切な施設での各病型に応じた最

新の診療が可能になる。(b) 臨床調査個人票の改訂により、指定難病患者の認定を明確かつ容易に実施できるようになる。(c) アミロイドーシス診断基準・重症度分類・診療ガイドライン等の公表により、アミロイドーシス医療の水準向上（均てん化）に資することが出来る。(d) 難病プラットフォームによるレジストリ研究により、新規に発症するアミロイドーシス患者の実態・予後を正確に把握でき、難病政策を始め、新薬の薬価改定等の基礎資料を提供できる。(e) 関連学会との連携体制を構築し、アミロイドーシスの疾患概念、早期診断、および最新の治療に関し、関連学会や非専門医、患者、一般国民への普及・啓発を推進できる。(f) アミロイドーシス患者ケアマニュアルの作成等により、患者の療養生活環境整備や QOL 向上に資する事ができる。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】(1)～(4)の各項目は、第1回研究班会議（令和3年8月27日、ウェブ開催）、第2回研究班会議（令和4年3月25日、ウェブ開催）、および各WGで随時開催するウェブ会議で議論・決定した。(5)は研究分担者の安東、植田、鈴木を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(1)に関し、個人情報保護には細心の注意を払った。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与えた。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た（令和4年1月26日 Ver.1.7）。これを基に病理WG各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、われわれは診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計した。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しなかった。(4)に関し、京都大学医の倫理審査委員会で中央倫理審査を受審し承認を得た（令和3年11月8日第7.0版）。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】

(1) 昨年度より2施設多い全国9施設（福井、東京医科歯科、慶應、信州、国立循環器病センター、山口、熊本、日本医科、京都府立医科）でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。昨年度集計後の1年間（令和2年12月～令和3年11月）で1682件のコンサルテーションを受け付け、1290件の病型を確定した。月平均コンサルテーション件数も、昨年度集計時と比べ1.3倍に増加した。

(2) 全身性アミロイドーシス改定診断基準を作成し、日本腎臓学会、日本アミロイドーシス学会、日本神経学会、日本血液学会、日本循環器学会の承認を得た後、令和2年3月に公表した（http://amyloidosis-research-committee.jp/wp-content/uploads/2020/07/diagnostic_200702.pdf）。これを基に『概要、診断基準等』改定案を作成し、指定難病検討委員会に提出した。

(3) 研究班での議論や厚労省の指導を踏まえ、今回の『概要、診断基準等』、『臨床調査個人票』改訂では、重症度分類の改訂は行わないこととした。

(4) 令和2年4月1日より『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』を開始した。登録開始以来、ALアミロイドーシス43症例、ATTRvアミロイドーシス82症例、ATTRwtアミロイドーシス884症例、計1,009症例の登録を終えた。登録数は昨年度集計時の2.9倍に増加した。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、12月現在、日本循環器学会認定100施設が参加している。昨年度集計時は79施設であった（令和2年8月現在）。

(5) 熊本大学神経内科（植田光晴班員）が中心となり、熊本にて①患者・家族向け講演会「アミロイドーシスの診断サポート及び先進的な難病治療法」（7月31日、患者・家族を含む総数22名参加）、②「道しるべの会」（FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会（8月1日、患者・家族19名を含む総数50名参加）、③患者・家族向け講演会「眼アミロイドーシスの診療と眼をまもるための取り組み」（9月19日、患者・家族21名を含む総数39名参加）をハイブリッド

開催した。日本赤十字社医療センター骨髄腫アミロイドーシスセンター（鈴木憲史班員）が中心となり、ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナー「進化するALアミロイドーシス治療」（10月31日、当日のオンライン参加者130名、その後のYouTube配信では450回視聴）をウェブ開催した。

D. 考察【項目番号は研究の目的に対応】

(1) 来年度、新たに東京女子医科大学、東京都健康長寿医療センターを担当施設に加え、体制の安定化と次世代育成に努める。

(2) 来年度、『概要、診断基準等』改定案が指定難病検討委員会で承認された後、『臨床調査個人票』改定案を提出する予定である。

E. 結論

全国9施設でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。全身性アミロイドーシス改定診断基準を基に『概要、診断基準等』改定案を作成し、指定難病検討委員会に提出した。『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』の登録開始以来、ALアミロイドーシス43症例、ATTRvアミロイドーシス82症例、ATTRwtアミロイドーシス884症例、計1,009症例の登録を終えた。熊本にて①患者・家族向け講演会「アミロイドーシスの診断サポート及び先進的な難病治療法」、②「道しるべの会」（FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会、③患者・家族向け講演会「眼アミロイドーシスの診療と眼をまもるための取り組み」を開催した。ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナー「進化するALアミロイドーシス治療」をウェブ開催した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

内木宏延

1) Tateishi Y, Yamada Y, Katsuki M, Nagata T, Yamamoto H, Kohashi K, Koga Y, Hashisako M, Kiyozawa D, Mori T, Kuboyama Y, Kakinokizono A,

Miyazaki Y, Yamaguchi A, Tsutsui H, Ninomiya T, Naiki H, Oda Y. Pathological review of cardiac amyloidosis using autopsy cases in a single Japanese institution. *Pathol Res Pract* 227: 153635, 2021.

2) Fujimoto T, Yamano T, Miyagawa-Hayashino A, Naiki H, Ueda M, Tasaki M, Yamano M, Zen K, Numata S, Matoba S. Case with transthyretin amyloid cardiomyopathy complicated with rapidly progressive aortic stenosis possibly caused by amyloid deposition in the aortic valve. *Circ Cardiovasc Imaging* 14(11): e013357, 2021.

3) Tanaka T, Naito T, Midori Y, Nosaka T, Takahashi K, Ofuji K, Matsuda H, Ohtani M, Hiramatsu K, Imamura Y, Yokoyama O, Naiki H, Nakamoto Y. Gastrointestinal AA amyloidosis secondary to chronic pyelonephritis presenting with refractory diarrhea and severe hypoalbuminemia. *Clin J Gastroenterol* 14(6): 1642-1648, 2021.

4) Shintani-Domoto Y, Ishino K, Naiki H, Sakatani T, Ohashi R. Autopsy case with concurrent transthyretin and immunoglobulin amyloidosis. *Pathol Int* 72(1): 65-71, 2022.

5) 内木 宏延. 蓄積病・アミロイドーシス. *病理と臨床* 39(臨増): 266-269, 2021.

6) 池田 善彦, 内木 宏延. 心アミロイドーシス. *病理と臨床* 39(10): 988-992, 2021.

安東由喜雄

1) Matsushita H, Isoguchi A, Okada M, Masuda T, Misumi Y, Tsutsui C, Yamaguchi N, Ichiki Y, Sawashita J, Ueda M, Mizuguchi M, Ando Y.

Glavonoid, a possible supplement for prevention of ATTR amyloidosis. *Heliyon* 7(10): e08101, 2021.

2) Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Ando Y, Ueda M. Metformin attenuates vascular pathology by increasing expression of insulin-degrading enzyme in a mixed model of cerebral amyloid angiopathy and type 2 diabetes mellitus. *Neurosci Lett* 762: 13136, 2021.

3) Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA, Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C,

Ruberg FL, Shah SJ, Slart RHJA, Verberne HJ, Bourque JM.

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging. *Circ Cardiovasc* 14(7): e000029, 2021.

4) Tasaki M, Lavatelli F, Obici L, Obayashi K, Miyamoto T, Merlini G, Palladini G, Ando Y, Ueda M. Age-related amyloidosis outside the brain: A state-of-the-art review. *Ageing Res Rev* 70: 101388, 2021.

5) Coelho T, Ando Y, Benson MD, Berk JL, Waddington-Cruz M, Dyck PJ, Gillmore JD, Khella SL, Litchy. Design and rationale of the global phase 3 NEURO-TTRtransform study of antisense oligonucleotide AKCEA-TTR-L(Rx) (ION-682884-CS3) in hereditary transthyretin-mediated amyloid polyneuropathy. *Neurol Ther* 10(1): 375-389, 2021.

6) Waddington-Cruz M, Wixner J, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Ando Y; THAOS investigators. Characteristics of patients with late- vs. early-onset Val30Met transthyretin amyloidosis from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS). *Neurol Ther* 10(2): 753-766, 2021.

7) Waddington-Cruz M, Ando Y, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Sekijima Y; THAOS investigators.

Feasibility of assessing progression of transthyretin amyloid polyneuropathy using nerve conduction studies: Findings from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS). *J Peripher Nerv Syst* 26(2): 160-166, 2021.

8) Inoue Y, Ando Y, Misumi Y, Ueda M. Current management and therapeutic strategies for cerebral amyloid angiopathy. *Int J Mol Sci* 22(8): 3869, 2021.

9) 田崎 雅義, 大林 光念, 安東 由喜雄, 植田 光晴. 新規アミロイド原因蛋白質 EFEMP1 の同定および本分子の疾患との関連. *臨床化学* 50(2): 124-129, 2021.

10) 安東 由喜雄. 私の治療「アミロイドーシス」
日本医事新報 5069: 41-42, 2021.

関島良樹

- 1) Abe R, Katoh N, Takahashi Y, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Sekijima Y. Distribution of amyloidosis subtypes based on tissue biopsy site - Consecutive analysis of 729 patients at a single amyloidosis center in Japan. *Pathol Int* 71(1): 70-7, 2021.
- 2) Aono Y, Hamatani Y, Katoh N, Nakagawa M, Nakamura K, Yazaki M, Kametani F, Iguchi M, Murakami I, Ogawa H, Abe M, Akao M, Sekijima Y. Late-onset Hereditary ATTR Amyloidosis with a Novel p.P63S (P43S) Transthyretin Variant. *Intern Med* 60(4): 557-561, 2021.
- 3) Garcia-Pavia P, Bengel F, Brito D, Damy T, Duca F, Dorbala S, Nativi-Nicolau J, Obici L, Rapezzi C, Sekijima Y, Elliott PM. Expert consensus on the monitoring of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *Eur J Heart Fail* 23(6): 895-905, 2021.
- 4) Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Uehara T, Sekijima Y. A case of novel amyloidosis: glucagon-derived amyloid deposition associated with pancreatic neuroendocrine tumour. *Amyloid* 28(1): 72-73, 2021.
- 5) Waddington-Cruz M, Ando Y, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Sekijima Y, THAOS investigators. Feasibility of assessing progression of transthyretin amyloid polyneuropathy using nerve conduction studies: Findings from the Transthyretin Amyloidosis Outcomes Survey (THAOS). *J Peripher Nerv Syst* 26(2): 160-166, 2021.
- 6) Yanagisawa S, Takahashi Y, Sasaki J, Takasone K, Yoshie K, Koyama J, Katoh N, Yazaki M, Kuwahara K, Sekijima Y. Absolute quantitative analysis of cardiac amyloidosis using SPECT/CT with ^{99m}Tc-pyrophosphate. *Amyloid* 28(3): 213-214, 2021.
- 7) Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Kusama Y, Sano K, Uehara T, Sekijima Y. Somatostatin-derived amyloid deposition associated with duodenal neuroendocrine tumour (NET): a report of novel localised amyloidosis associated with NET. *Amyloid* 29(1): 64-65, 2022.
- 8) 関島 良樹. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス. *Pharma Medica* 39(3): 39-43, 2021.

- 9) 関島 良樹. アミロイドーシス治療の進歩. *日本内科学会雑誌* 110(6): 1170-1177, 2021.
- 10) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシスは決してめずらしい病気ではない. *内科* 12(3): 617-619, 2021.
- 10) 関島 良樹. アミロイドニューロパチー. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 39(11): 1444-1446, 2021.
- 11) 中村 勝哉, 関島 良樹. 遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリングと発症前診断. *臨床神経学* 61(9): 588-593, 2021.
- 12) 関島 良樹. アミロイドニューロパチー. 福井次矢, 高木 誠, 小室 一成 編集, *今日の治療方針 私はこう治療している*, 1014-1015, 医学書院, 東京, 2021.
- 13) 関島 良樹. RNA干渉による遺伝性ATTRアミロイドーシス治療, 鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭 編集, *Annual Review 神経 2021*, 302-309, 中外医学社, 東京, 2021.
- 14) 関島 良樹. 遺伝性アミロイドーシス, 蒔田 芳男, 櫻井 晃洋 編集, *臨床遺伝専門医テキスト ④各論III 臨床遺伝学成人領域, 診断と治療社*, 94-97, 東京, 2021.
- 15) 関島 良樹. 脳アミロイドアンギオパチー. 下畑 享良 編集, *脳神経内科診断ハンドブック*, 37-41, 東京, 2021.
- 16) 関島 良樹. アミロイドーシスによる神経障害. 下畑 享良 編集, *脳神経内科診断ハンドブック*, 288-292, 東京, 2021.

植田光晴

- 1) Ueda M. Transthyretin: its function and amyloid formation. *Neurochem Int* 155: 105313, 2022.
- 2) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee H, Russo E, Kubo T. ^{99m}Technetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9: 251-262, 2022.
- 3) Tasaki M, Lavatelli F, Obici L, Obayashi K, Miyamoto T, Merlini G, Palladini G, Ando Y, Ueda M. Age-related amyloidosis outside the brain: A state-of-the-art review. *Ageing Research Reviews* 70:

- 101388, 2021.
- 4) Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J. Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm. *ESC Heart Fail* 8: 2647-2659, 2021.
- 5) Inoue Y, Ando Y, Misumi Y, Ueda M. Current management and therapeutic strategies for cerebral amyloid angiopathy. *Int J Mol Sci* 22: 3869, 2021.
- 6) Yumoto S, Doi K, Higashi T, Shimao Y, Ueda M, Ishihara A, Adachi Y, Ishiodori H, Honda S, Baba H. Intra-abdominal bleeding caused by amyloid transthyretin amyloidosis in the gastrointestinal tract: a case report. *Clin J Gastroenterol* 15: 140-145, 2022.
- 7) Tasaki M, Oishi T, Ueda M. EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 (EFEMP1) amyloid deposits in the lower rectum from aged patient with bloody stools. *Pathol Int* 72(3): 217-218, 2022.
- 8) Benson MD, Berk JL, Dispenzieri A, Damy T, Gillmore JD, Hazenberg BP, Lavatelli F, Picken MM, Röcken C, Schönland S, Ueda M, Westermarck P. Tissue biopsy for the diagnosis of amyloidosis: experience from some centres. *Amyloid* 29: 8-13, 2022.
- 9) Takashio S, Yamada T, Nishi M, Morioka M, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Kaikita K, Tsujita K. Sex-related differences in the clinical characteristics of wild-type transthyretin amyloidosis cardiomyopathy. *J Cardiol* 79: 50-57, 2022.
- 10) Fujimoto T, Yamano T, Miyagawa-Hayashino A, Naiki H, Ueda M, Tasaki M, Yamano M, Zen K, Numata S, Matoba S. A case with transthyretin amyloid cardiomyopathy complicated with rapidly progressive aortic stenosis possibly caused by amyloid deposition in the aortic valve. *Circ Cardiovasc Imaging* 14: e013357, 2021.
- 11) Nakashima N, Takashio S, Morioka M, Nishi M, Hirakawa K, Hanatani S, Masuda T, Ueda M, Tsujita K. Preclinical diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in a patient undergoing carpal tunnel release. *J Cardiol Cases* 24: 250-253, 2021.
- 12) Oike F, Usuku H, Yamamoto E, Yamada T, Egashira K, Morioka M, Nishi M, Komorita T, Hirakawa K, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Hanatani S, Sueta D, Arima Y, Araki S, Takashio S, Oda S, Misumi Y, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K. Prognostic value of left atrial strain in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 8: 5316-5326, 2021.
- 13) Maeda K, Kubota Y, Kitagawa S, Ueda M, Ando Y, Ito Y. The prostate as a good candidate organ for proving amyloid deposition in non-endemic late onset hereditary transthyretin amyloidosis: Report of two cases. *J Neurol Sci* 424: 117418, 2021.
- 14) Ohya Y, Tasaki M, Hayashida S, Katayama N, Tsuchida T, Kuriwaki K, Ueda M, Inomata Y. Carpal tunnel syndrome due to iatrogenic amyloidosis after domino liver transplantation from hereditary transthyretin amyloidosis: a case report. *Transplant Proc* 53: 1313-1316, 2021.
- 15) Okada M, Misumi Y, Masuda T, Takashio S, Tasaki M, Matsushita H, Ueda A, Inoue Y, Nomura T, Nakajima M, Yamashita T, Shinriki S, Matsui H, Tsujita K, Ando Y, Ueda M. Plasma growth differentiation factor 15: A novel tool to detect early changes of hereditary transthyretin amyloidosis. *ESC Heart Fail* 8: 1178-1185, 2021.
- 16) Tasaki M, Okada M, Yanagisawa A, Nomura T, Ueda A, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Miyamoto T, Obayashi K, Ando Y, Ueda M. Apolipoprotein AI amyloid deposits in the ligamentum flavum in patients with lumbar spinal canal stenosis. *Amyloid* 28: 107-112, 2021.
- 17) Tsukamoto Y, Tasaki M, Fujii H, Tsujie M, Ueda M. EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 amyloid incidentally found in surgically resected specimens of colon cancer: a case report emphasizing on an unrecognized type. *Amyloid* 28: 136-137, 2021.
- 18) Adams D, Polydefkis M, Gonzalez-Duarte A, Wixner J, Kristen A, Schmidt H, Berk J, López I, Dispenzieri A, Conceição I, Slama M, Gillmore J, Kyriakides T, Ajroud-Driss S, Waddington-Cruz M,

Mezei M, Plante-Bordeneuve V, Attarian S, Mauricio E, Brannagan T, Ueda M, Aldinc E, Wang J, White M, Vest J, Berber E, Sweetser M, Coelho T. Long-term safety and efficacy of patisiran for hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: 12-month results of an open-label extension study. *Lancet Neurol* 20: 49-59, 2021.

島崎千尋

- 1) Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Wechalekar AD, Jaccard A, Lee HC, Sanchorawala V, Gibbs S, Mollie P, Venner CP, Lu J, Schönland S, Gatt ME, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Huart A, Dimopoulos MA, Bhutani D, Waxman AJ, Goodman SA, Zonder JA, Lam S, Song K, Hansen T, Manier S, Roeloffzen W, Jamroziak K, Kwok F, Shimazaki C, Kim JS, Crusoe E, Ahmadi T, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Schechter JM, Weiss BM, Zhuang SH, Vermeulen J, Merlini G, Comenzo RL; ANDROMEDA Trial Investigators. Daratumumab-based treatment for immunoglobulin light-chain amyloidosis. *N Engl J Med* 385: 46-58, 2021.
- 2) Takakuwa T, Yamamura R, Ohta K, Kaneko H, Imada K, Nakaya A, Fuchida SI, Shibayama H, Matsuda M, Shimazu Y, Adachi Y, Kosugi S, Uchiyama H, Tanaka H, Hanamoto H, Shimura Y, Kanda J, Onda Y, Uoshima N, Yagi H, Yoshihara S, Hino M, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Kanakura Y, Nomura S. Outcomes of ixazomib/lenalidomide/dexamethasone for multiple myeloma: A multicenter retrospective analysis. *Eur J Haematol* 106(4): 555-562, 2021.
- 3) Takakuwa T, Ohta K, Nakatani E, Ito T, Kaneko H, Fuchida SI, Shimura Y, Yagi H, Shibayama H, Kanda J, Uchiyama H, Kosugi S, Tanaka H, Kawata E, Uoshima N, Ishikawa J, Shibano M, Karasuno T, Shindo M, Shimizu Y, Imada K, Kanakura Y, Kuroda J, Hino M, Nomura S, Takaori-Kondo A, Shimazaki C, Matsumura I. Plateau is a prognostic factor of lenalidomide therapy for previously treated multiple myeloma. *Hematol Oncol* 39(3): 349-357, 2021.

- 4) Kawaji-Kanayama Y, Kobayashi T, Muramatsu A, Uchiyama H, Sasaki N, Uoshima N, Nakao M, Takahashi R, Shimura K, Kaneko H, Kiyota M, Wada K, Chinen Y, Hirakawa K, Fuchida SI, Shimazaki C, Matsumura-Kimoto Y, Mizutani S, Tsukamoto T, Shimura Y, Horiike S, Taniwaki M, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology Study Group (KOTOSG) Investigators. Prognostic impact of resistance to bortezomib and/or lenalidomide in carfilzomib-based therapies for relapsed/refractory multiple myeloma: The Kyoto Clinical Hematology Study Group, multicenter, pilot, prospective, observational study in Asian patients. *Cancer Rep (Hoboken)* 14: e1476, 2021.
- 5) Nakaya A, Shibayama H, Nakatani E, Shimura Y, Kosugi S, Tanaka H, Fuchida S, Kanda J, Uoshima N, Kaneko H, Imada K, Ohta K, Ito T, Yagi H, Yoshihara S, Hino M, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Kanakura Y, Nomura S. Significance of maintenance therapy after HDT/ASCT in symptomatic multiple myeloma: A multicenter retrospective analysis in Kansai Myeloma Forum. *eJHem* 2: 765-773, 2021.
- 6) Katsuragawa-Taminishi Y, Ide D, Maegawa-Matsui S, Fuchida S, Hatsuse M, Murakami S, Kuroda J, Shimazaki C. Acquired amegakaryocytic thrombocytopenic purpura that presented as cyclic thrombocytopenia associated with anti-phospholipid antibody syndrome. *Clin Hematol Res* 4: 42-46, 2021.

飯田真介

- 1) Iida S, Ishikawa T, Min CK, Kim K, Yeh SP, Usmani SZ, Mateos M-V, Nahi H, Hueck C, Qin X, Parasrampur DA, Gries KS, Qi M, Bahlis N, Ito S. Subcutaneous daratumumab in Asian patients with heavily pretreated multiple myeloma: subgroup analyses of the noninferiority, phase 3 COLUMBA study. *Ann Hematol* 100: 1065-1077, 2021.
- 2) Iida S, Izumi T, Komeno T, Terui Y, Chou T, Ikeda T, Berg D, Fukunaga S, Sugiura K, Sasaki M. A phase 2, open-label, multicenter study of ixazomib plus lenalidomide and dexamethasone in adult Japanese

patients with relapsed and/or refractory multiple myeloma. *Int J Clin Oncol* 27: 224-233, 2021.

- 3) Ri M, Iida S, Maruyama D, Sakabe A, Kamei R, Nakashima T, Tohkn M, Osaga S, Tobinai K, Fukuhara N, Miyazaki K, Tsukamoto N, Tsujimura H, Yoshimitsu M, Miyamoto K, Tsukasaki K, Nagai H. HLA genotyping in Japanese patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1). *Cancer Sci* 112: 5011-5019, 2021.
- 4) Avet-Loiseau H, San-Miguel J, Casneuf T, Iida S, Lonial S, Usmani SZ, Spencer A, Moreau P, Plesner T, Weisel K, Ukropec J, Chiu C, Trivedi S, Amin H, Krevvata M, Ramaswami P, Qin X, Qi M, Sun S, Qi M, Kobos R, Bahlis NJ. Evaluation of sustained minimal residual disease negativity with daratumumab-combination regimens in relapsed/refractory multiple myeloma: analysis of POLLUX and CASTOR. *J Clin Oncol* 39: 1139-1149, 2021.
- 5) Cavo M, San-Miguel J, Usmani SZ, Weisel K, Dimopoulos MA, Avet-Loiseau H, Paiva B, Bahlis NJ, Plesner T, Hungria V, Moreau P, Mateos M-V, Perrot A, Iida S, Facon T, Kumar S, van de Donk NWCJ, Sonneveld P, Spencer A, Krevvata M, Heuck C, Wang J, Ukropec J, Kobos R, Sun S, Qi M, Munshi N. Prognostic value of minimal residual disease negativity in myeloma: combined analysis of POLLUX, CASTOR, ALCYONE, MAIA. *Blood* 139: 835-844, 2022.
- 6) Suzuki N, Okuyama T, Akechi T, Kusumoto S, Ri M, Inagaki A, Kayukawa S, Yano H, Yoshida T, Shiraga K, Hashimoto H, Aiki S, Iida S. Symptoms and health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma: a multicenter prospective cohort study. *Jpn J Clin Oncol* 52: 163-169, 2022.
- 7) 飯田 真介. 分子標的薬による MGRS の治療 腎と透析 92: 463-466, 2022.

小池春樹

- 1) Koike H, Nishi R, Ohyama K, Morozumi S, Kawagashira Y, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y,

Iijima M, Sobue G, Katsuno M. ANCA-associated vasculitic neuropathies: a review. *Neurol Ther* 11(1): 21-38, 2022.

- 2) Koike H, Katsuno M. Paraproteinemia and neuropathy. *Neurol Sci* 42(11): 4489-4501, 2021.
- 3) Koike H, Iguchi Y, Sahashi K, Katsuno M. Significance of Oligomeric and Fibrillar Species in Amyloidosis: Insights into Pathophysiology and Treatment. *Molecules* 26(16): 5091, 2021.
- 4) Koike H, Katsuno M. The Ultrastructure of Tissue Damage by Amyloid Fibrils. *Molecules* 26(15): 4611, 2021.
- 5) Koike H, Katsuno M. The role of macrophages in Guillain-Barré syndrome and chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy. *Neurol Clin Neurosci* 9(3): 203-210, 2021.
- 6) Koike H, Okumura T, Murohara T, Katsuno M. Multidisciplinary Approaches for Transthyretin Amyloidosis. *Cardiol Ther* 10(2): 289-311, 2021.
- 7) Koike H, Chiba A, Katsuno M. Emerging Infection, Vaccination, and Guillain-Barré Syndrome: A Review. *Neurol Ther* 10(2): 523-537, 2021.
- 8) Koike H, Katsuno M. Macrophages and Autoantibodies in Demyelinating Diseases. *Cells* 10(4): 844, 2021.
- 9) Koike H, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Matsuo K, Yagi N, Saito A, Nakamura H, Takahashi K, Nakae Y, Okada Y, Tanaka F, Sobue G, Katsuno M. Two distinct mechanisms of neuropathy in immunoglobulin light chain (AL) amyloidosis. *J Neurol Sci* 421: 117305, 2021.
- 10) Hsueh HW, Chao CC, Chang K, Jeng YM, Katsuno M, Koike H, Hsieh ST. Unique Phenotypes With Corresponding Pathology in Late-Onset Hereditary Transthyretin Amyloidosis of A97S vs. V30M. *Front Aging Neurosci* 13: 786322, 2022.
- 11) Jozuka R, Kimura H, Uematsu T, Fujigaki H, Yamamoto Y, Kobayashi M, Kawabata K, Koike H, Inada T, Saito K, Katsuno M, Ozaki N. Severe and long-lasting neuropsychiatric symptoms after mild respiratory symptoms caused by COVID-19: A case report. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(1): 114-119, 2022.

- 12) Ando T, Nakamura R, Kuru S, Yokoi D, Atsuta N, Koike H, Suzuki M, Hara K, Iguchi Y, Harada Y, Yoshida Y, Hattori M, Murakami A, Noda S, Kimura S, Sone J, Nakamura T, Goto Y, Mano K, Okada H, Okuda S, Nishino I, Ogi T, Sobue G, Katsuno M. The wide-ranging clinical and genetic features in Japanese families with valosin-containing protein proteinopathy. *Neurobiol Aging* 100: 120.e1-120.e6, 2021.
- 13) Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, Ito D, Kishimoto Y, Iida M, Koike H, Hirakawa A, Katsuno M. Ratio of urinary N-terminal titin fragment to urinary creatinine is a novel biomarker for amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 92(10): 1072-1079, 2021.
- 14) Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yamada S, Hashizume A, Katsuno M. Association of serum neurofilament light chain levels with clinicopathology of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy, including NF155 reactive patients. *J Neurol* 268(10): 3835-3844, 2021.
- 15) Oishi M, Mukaino A, Kunii M, Saito A, Arita Y, Koike H, Higuchi O, Maeda Y, Abiru N, Yamaguchi N, Kawano H, Tsuiki E, Tanaka T, Matsuo H, Katsuno M, Tanaka F, Tsujino A, Nakane S. Association between neurosarcoidosis with autonomic dysfunction and anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies. *J Neurol* 268(11): 4265-4279, 2021.
- 16) Sommer C, Carroll AS, Koike H, Katsuno M, Ort N, Sobue G, Vucic S, Spies JM, Doppler K, Kiernan MC. Nerve biopsy in acquired neuropathies. *J Peripher Nerv Syst* 26(Suppl 2): S21-S41, 2021.
- 17) 小池 春樹. その他のニューロパチー (糖尿病性, 傍腫瘍性, 薬剤性ニューロパチー). In: 永田 栄一郎, 伊藤 義彰, editor. 脳神経内科学レビュー 2022-23, 総合医学社, 東京, 235-240, 2022.
- 18) 小池 春樹. 多発ニューロパチー. In: 福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成, editor. 今日の治療指針 2022年版, 医学書院, 東京, 1009, 2022.
- 19) 小池 春樹. 免疫介在性ニューロパチーの超微形態学. In: 鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭, edotor. Annual Review 神経 2021、中外医学社, 東京, 294-301, 2021.
- 20) 小池 春樹. 限局性血管炎に伴う神経障害. In: 下畑 享良, editor. 脳神経内科診断ハンドブック, 中外医学社, 東京, 559-562, 2021.
- 21) 小池 春樹. 自律神経障害 (多系統萎縮症を含む). In: 福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成, editor. 今日の治療指針 2021年版, 医学書院 990-991, 2021.
- 22) 小池 春樹. 自己免疫性自律神経障害. In: 園生 雅弘, 北川 一夫, 青木 正志, editor. 脳神経疾患最新の治療 2021-2023, 南江堂, 東京, 254-255, 2021.
- 23) 小池 春樹. ANCA関連血管炎における末梢神経病変. *リウマチ科* 66(6): 608-614, 2021.
- 24) 小池 春樹. 神経疾患研究の現状の課題と展望 全身性疾患における神経障害. *Clinical Neuroscience* 39(10): 1286-1290, 2021.
- 25) 小池 春樹. 自己免疫性自律神経ニューロパチーの臨床像と治療法. *脳神経内科* 95(2): 172-176, 2021.
- 26) 小池 春樹. 純粹自律神経不全症型のレビー小体病と免疫介在性自律神経ニューロパチー. *自律神経* 58(2): 199-203, 2021.
- 27) 仁紫 了爾, 小池 春樹, 勝野 雅央. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に伴う末梢神経障害 ANCAとIL-5の意義も含めて. *末梢神経* 32(1): 68-74, 2021.
- 28) 望月 秀樹, 青木 正志, 池中 建介, 井上 治久, 岩坪 威, 宇川 義一, 岡澤 均, 小野 賢二郎, 小野寺 理, 北川 一夫, 齊藤 祐子, 下畑 享良, 高橋 良輔, 戸田 達史, 中原 仁, 松本 理器, 水澤 英洋, 三井 純, 村山 繁雄, 勝野 雅央, 青木 吉嗣, 石浦 浩之, 和泉 唯信, 小池 春樹, 島田 斉, 高橋 祐二, 徳田 隆彦, 中嶋 秀人, 波田 野琢, 三澤 園子, 渡辺 宏久, 水澤 英洋, 阿部 康二, 宇川 義一, 梶 龍兒, 亀井 聡, 神田 隆, 吉良 潤一, 楠 進, 鈴木 則宏, 祖父江 元, 高橋 良輔, 辻 省次, 中島 健二, 西澤 正豊, 服部 信孝, 福山 秀直, 峰松 一夫, 村山 繁雄, 望月 秀樹, 山田 正仁, 日本神経学会将来構想委員会. 脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言2020、総論. *臨床神経学* 61(11): 709-721, 2021.

西 慎一

- 1) Fujii H, Kono K, Goto S, Watanabe K, Nishii T, Kono A, Nishi S. Evaluation of Aortic Calcification Using a Three-Dimensional Volume-Rendering Method in Patients with Chronic Kidney Disease. *J Bone Miner Meta* 39(3): 439-445, 2021.
- 2) 西慎一. 指定難病 アミロイドーシスに対する対策. *腎臓内科* 13(1): 77-85, 2021.

星野純一

- 1) Mizuno H, Hoshino J (co-first), So M, Kogure Y, Fujii T, Ubara Y, Takaichi K, Nakaniwa T, Tanaka H, Kurisu G, Kametani F, Nakagawa M, Yoshinaga T, Sekijima Y, Higuchi K, Goto Y, Yazaki M. Dialysis-related amyloidosis associated with a novel β 2-microglobulin variant. *Amyloid* 28(1): 42-49, 2021.
- 2) Hoshino J, Tsunoda R, Nagai K, Kai H, Saito C, Ito Y, Asahi K, Kondo M, Iseki K, Iseki C, Okada H, Kashihara N, Narita I, Wada T, Combe C, Pisoni RL, Robinson BM, Yamagata K. Comparison of annual eGFR decline among primary kidney diseases in patients with CKD G3b-5: results from a REACH-J CKD cohort study. *Clin Exp Nephrol* 25(8): 902-910, 2021.
- 3) Hatano M, Kitajima I, Yamamoto S, Nakamura M, Isawa K, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y. Dialysis-related carpal tunnel syndrome in the past 40 years. *Clin Exp Nephrol* 26(1): 68-74, 2022.
- 4) Fukuda M, Sawa N, Hoshino J, Ohashi K, Motoaki M, Ubara Y. Tocilizumab preserves renal function in rheumatoid arthritis with AA amyloidosis and end-stage kidney disease: Two case reports. *Clin Nephrol* 95(1): 54-61, 2021.
- 5) 花房 規男(日本透析医学会), 阿部 雅紀, 常喜 信彦, 星野 純一, 菊地 勘, 後藤 俊介, 神田 英一郎, 谷口 正智, 中井 滋, 長沼 俊秀, 長谷川 毅, 三浦 健一郎, 和田 篤志, 武本 佳昭, 日本透析医学会統計調査委員会. わが国の慢性透析療法の現況(2020年12月31日現在). *日本透析医学会雑誌* 54(12): 611-657, 2021.

山田俊幸

- 1) Kamei R, Sawahata M, Yoshizumi N, Sata M, Nakayama M, Yamada T, Taniguchi N, Suzuki T,

Bando M, Hagiwara K. Pulmonary mycobacterium avium complex disease complicated by cancer: an 11-year survey at a single center. *J Rural Med* 16: 72-76, 2021.

小野賢二郎

- 1) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Kasuga K, Murakami H, Ikeuchi T, Ono K. Cingulate Island Sign in Single Photon Emission Computed Tomography: Clinical Biomarker Correlations in Lewy Body Disease and Alzheimer's Disease. *J Alzheimers Dis* 79: 1003-1008, 2021.
- 2) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Kasuga K, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Tsuji M, Ikeuchi T, Irie K, Ono K. Toxic amyloid- β ₄₂ conformer may accelerate the onset of Alzheimer's disease in the preclinical stage. *J Alzheimers Dis* 80: 639-646, 2021.
- 3) Hamaguchi T, Kim JH, Hasegawa A, Goto R, Sakai K, Ono K, Itoh Y, Yamada M. Exogenous A β seeds induce A β depositions in the blood vessels rather than the brain parenchyma, independently of A β strain-specific information. *Acta Neuropathol Commun* 9:151, 2021.
- 4) Ibrahim NF, Hamezah HS, Yanagisawa D, Tsuji M, Kiuchi Y, Ono K, Tooyama I. The effect of α -tocopherol, α - and γ -tocotrienols on amyloid- β aggregation and disaggregation in vitro. *Biochem Biophys Rep* 28: 101131, 2021.
- 5) Kimura A, Tsuji M, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Tsuji Y, Umino M, Umino A, Nishikawa T, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Ono K. Myricetin prevents high molecular weight A β ₁₋₄₂ oligomer-induced neurotoxicity through antioxidant effects in cell membranes and mitochondria. *Free Radic Biol Med* 171: 232-244, 2021.
- 6) Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Kasai H, Yano S, Hieda S, Kasuga K, Ikeuchi T, Ono K. White Matter Lesions May Aid in Differentiating Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus and Alzheimer's Disease. *J Alzheimers Dis* 85: 851-862, 2022.
- 7) Mori Y, Tsuji M, Oguchi T, Kasuga K, Kimura A, Futamura A, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S,

- Hieda S, Kiuchi Y, Ikeuchi T, Ono K. Serum BDNF as a Potential Biomarker of Alzheimer's Disease: Verification Through Assessment of Serum, Cerebrospinal Fluid, and Medial Temporal Lobe Atrophy. *Front Neurol* 12: 653267, 2021.
- 8) Nakano H, Hamaguchi T, Ikeda T, Watanabe-Nakayama T, Ono K, Yamada M. Inactivation of seeding activity of amyloid β -protein aggregates in vitro. *J Neurochem* 160: 499-516, 2022.
- 9) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Ikeda T, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M. Cerebrospinal fluid cytokines and metalloproteinases in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *Acta Neurol Scand* 143: 450-457, 2021.
- 10) Senda M, Ishii K, Ito K, Ikeuchi T, Matsuda H, Iwatsubo T, Iwata A, Ihara R, Suzuki K, Kasuga K, Ikari Y, Niimi Y, Arai H, Tamaoka A, Arahata Y, Itoh Y, Tachibana H, Ichimiya Y, Washizuka S, Odawara T, Ishii K, Ono K, Yokota T, Nakanishi A, Matsubara E, Mori H, Shimada H. A Japanese Multicenter Study on PET and Other Biomarkers for Subjects with Potential Preclinical and Prodromal Alzheimer's Disease. *J Prev Alzheimers Dis* 8: 495-502, 2021.
- 11) Ono K, Watanabe-Nakayama T. Aggregation and structure of amyloid β -protein. *Neurochem Int* 151: 105208, 2021.
- 12) Watanabe-Nakayama T, Ono K. Acquisition and processing of high-speed atomic force microscopy videos for single amyloid aggregate observation. *Methods* 197: 4-12, 2022.
- 13) 小野 賢二郎. アルツハイマー病の病態と治療戦略を考える. *老年期認知症研究会誌* 23: 41-42, 2021.
- 14) 小野 賢二郎. 認知症診療の知 アルツハイマー病の疾患修飾療法の展望. *脳神経外科ジャーナル* 30: 840-844, 2021.
- 15) 小野 賢二郎. 抗 A β 療法の現状と展望. *神経治療学* 38: 146, 2021.
- 16) 小野 賢二郎. 認知症の Patient Journey を見つけた医療介入. *老年精神医学雑誌* 32 増刊号: 19-25, 2022.
- 17) 杉本 あずさ, 小野 賢二郎. 神経内科学のトピックス A β 凝集制御薬. *認知症の最新医療* 11: 18-23, 2021.
- 18) 稗田 宗太郎, 小野 賢二郎. 神経内科学のトピックス A β 免疫療法時代における高齢者タウオパチーの重要性. *認知症の最新医療* 11: 38-40, 2021.
- 19) 稗田 宗太郎, 小野 賢二郎. 認知症の治療の進歩. *神経治療学*, 38: 343-346, 2021.
- 20) 小野 賢二郎. 認知症診療に必要な神経科学の基礎知識. 山田 正仁 (編), *認知症診療実践ハンドブック改訂2版*, 中外医学社, 東京, 24-33, 2021.
- 21) 小野 賢二郎. Alzheimer 病. 園生 雅弘, 北川一夫, 青木 正志 (編) 最新の治療 2021-2023 年, 南江堂, 東京, 169-170, 2021.
- 22) 小野 賢二郎. アルツハイマー病とアミロイド β の現在. 鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭 (編), *Annual Review 神経 2021*, 中外医学社, 東京, 130-136, 2021.

北岡裕章

- 1) Takahashi M, Okamoto N, Nishida K, Nakaoka Y, Imai RI, Seki SI, Kubo T, Yamasaki N, Kitaoka H, Kubokawa SI, Kawai K, Hamashige N, Doi Y. Progressive deterioration of frailty is associated with poor outcomes in patients with transthyretin cardiac amyloidosis. *Geriatr Gerontol Int* 21(10): 967-969, 2021.
- 2) Ochi Y, Kubo T, Baba Y, Sugiura K, Ueda M, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Hamada T, Yamasaki N, Kitaoka H. Wild-Type Transthyretin Amyloidosis in Female Patients - Consideration of Sex Differences. *Cir Rep* 3(8): 465-471, 2021.
- 3) Sugiura K, Kozuki H, Ueba H, Kubo T, Ochi Y, Baba Y, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Yamasaki N, Wada N, Nakashima J, Murakami I, Ikeuchi M, Kitaoka H. Tenosynovial and Cardiac Transthyretin Amyloidosis in Japanese Patients Undergoing Carpal Tunnel Release. *Cir Rep* 3(6): 338-344, 2021.
- 4) 中屋 雄太, 大木本 明義, 北岡 裕章. 心アミロイドーシス患者の心肺運動負荷試験指標の特徴に関する実態調査. *心臓* 54(1): 51-57, 2021.
- 5) 北岡 裕章. 高齢者心不全と心アミロイドーシ

ス. 老年内科 4(1): 57-64, 2021.

田原宣広

- 1) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee HE, Russo E, Kubo T. ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9(1): 251-262, 2022.
- 2) Tahara N, Tahara A, Maeda S, Yoshimura H, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Nishino Y, Matsui T, Fukami A, Enomoto M, Adachi H, Fukumoto Y, Yamagishi SI. Increased urinary levels of pentosidine measured by a newly developed ELISA are independently correlated with fracture after fall. *Rejuvenation Res* 24(6): 449-455, 2021.
- 3) Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J. Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm. *ESC Heart Fail* 8(4): 2647-2659, 2021.
- 4) Kawaguchi T, Honda A, Sugiyama Y, Nakano D, Tsutsumi T, Tahara N, Torimura T, Fukumoto Y. Association between the albumin-bilirubin (ALBI) score and severity of portopulmonary hypertension (PoPH): A data-mining analysis. *Hepatol Res* 51(12): 1207-1218, 2021.
- 5) Sugiyama Y, Tahara N, Ueno T, Fukumoto Y. First remote-controlled robotic-enhanced balloon pulmonary angioplasty to chronic thromboembolic pulmonary hypertension. *Eur Heart J Case Rep* 5(10): ytab404, 2021.
- 6) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Harada A, Hirakawa Y, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Ueno T. Switching from clopidogrel to prasugrel resolves vascular inflammation in patients receiving long-term aspirin plus clopidogrel therapy after coronary stent implantation. *J Nucl Cardiol* 28(3): 1191-1192, 2021.
- 7) Honda A, Tahara N, Shojima T, Fukumoto Y. Multimodal imaging of quadricuspid aortic valve in elderly patient. *Eur Heart J Case Rep* 5(9): ytab344, 2021.
- 8) 田原 宣広. 炎症と動脈硬化. *久留米醫學會雜*

誌 84(6・7): 205-217, 2021

遠藤 仁

- 1) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee HE, Russo E, Kubo T. ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9(1): 251-262, 2022.
- 2) Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Ikura H, Fukuda K. Early Diagnosis of Amyloid Cardiomyopathy: Potential and Need Before the Onset of Decompensated Heart Failure. *JACC CardioOncol* 3(2): 338, 2021.
- 3) Kitakata H, Endo J, Matsushima H, Yamamoto S, Ikura H, Hirai A, Koh S, Ichihara G, Hiraide T, Moriyama H, Shirakawa K, Goto S, Katsumata Y, Anzai A, Kataoka M, Tokuyama T, Ishido S, Yanagi S, Fukuda K, Sano M. MITOL/MARCH5 determines the susceptibility of cardiomyocytes to doxorubicin-induced ferroptosis by regulating GSH homeostasis. *J Mol Cell Cardiol* 161: 116-129, 2021.
- 4) Kitakata H, Endo J, Hashimoto S, Mizuno E, Moriyama H, Shirakawa K, Goto S, Katsumata Y, Fukuda K, Sano M. Imeglimin prevents heart failure with preserved ejection fraction by recovering the impaired unfolded protein response in mice subjected to cardiometabolic stress. *Biochem Biophys Res Commun* 572: 185-190, 2021.
- 5) Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J. Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm. *ESC Heart Fail* 8(4): 2647-2659, 2021.
- 6) Goto S, Mahara K, Beussink-Nelson L, Ikura H, Katsumata Y, Endo J, Gaggin HK, Shah SJ, Itabashi Y, MacRae CA, Deo RC. Artificial intelligence-enabled fully automated detection of cardiac amyloidosis using electrocardiograms and echocardiograms. *Nat Commun* 12(1): 2726, 2021.
- 7) Miura K, Kimura M, Anzai A, Arai T, Kawakami T, Yuasa S, Hayashida K, Endo J, Tsuruta H, Itabashi Y, Kawamura A, Fukuda K, Kanazawa H. Predictors of

New-Onset Atrial Tachyarrhythmias After Transcatheter Atrial Septal Defect Closure in Adults. *Heart Lung Circ* 30(9): 1406-1413, 2021.

8) Sugiyama Y, Hakuno D, Yonemori K, Endo J, Sueyoshi K. Paraneoplastic rheumatic syndrome caused by left ventricular intimal sarcoma. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 22(4): e9, 2021.

9) Goto S, Ichihara G, Katsumata Y, Ko S, Anzai A, Shirakawa K, Endo J, Kataoka M, Moriyama H, Hiraide T, Kitakata H, Kobayashi T, Fukuda K, Sano M. Time-Series Transcriptome Analysis Reveals the miR-27a-5p-Ppm1l Axis as a New Pathway Regulating Macrophage Alternative Polarization After Myocardial Infarction. *Circ J* 85(6): 929-938, 2021.

10) Shinya Y, Hiraide T, Momoi M, Goto S, Suzuki H, Katsumata Y, Kurebayashi Y, Endo J, Sano M, Fukuda K, Kosaki K, Kataoka M. TNFRSF13B c.226G>A (p.Gly76Ser) as a Novel Causative Mutation for Pulmonary Arterial Hypertension. *J Am Heart Assoc* 10(5): e019245, 2021.

11) Murata M, Kawakami T, Kataoka M, Moriyama H, Hiraide T, Kimura M, Endo J, Kohno T, Itabashi Y, Fukuda K. Clinical Significance of Guanylate Cyclase Stimulator, Riociguat, on Right Ventricular Functional Improvement in Patients with Pulmonary Hypertension. *Cardiology* 146(1): 130-136, 2021.

12) Kitakata H, Itabashi Y, Kanazawa H, Miura K, Kimura M, Shinada K, de Jongh MC, Endo J, Tsuruta H, Murata M, Kawamura A, Murata M, Fukuda K. Appropriate device selection for transcatheter atrial septal defect closure using three-dimensional transesophageal echocardiography. *Int J Cardiovasc Imaging* 37(4): 1159-1168, 2021.

13) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの最新の治療. *医学のあゆみ* 277(5): 45-50, 2021.

大橋健一

1) Koga-Kobori S, Sawa N, Kido R, Sekine A, Mizuno H, Yamanouchi M, Hayami N, Suwabe T, Hoshino J, Kinowaki K, Ohashi K, Fujii T, Ubara Y. Fabry Disease on Peritoneal Dialysis with Cardiac Involvement. *Intern Med* 60(10):1561-1565, 2021.

2) Uchida K, Furukawa A, Yoneyama A, Furusawa H,

Kobayashi D, Ito T, Yamamoto K, Sekine M, Miura K, Akashi T, Eishi Y, Ohashi K. Propionibacterium acnes-Derived Circulating Immune Complexes in Sarcoidosis Patients. *Microorganisms* 9(11): 2194, 2021.

3) Fukuda M, Mizuno H, Hiramatsu R, Sekine A, Kawada M, Hasegawa E, Yamanouchi M, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Takaichi K, Kinowaki K, Ohashi K, Fujii T, Miyazono M, Ubara Y. A case of thrombotic microangiopathy associated with polymyositis. *Clin Nephrol* 95(6): 339-344, 2021.

4) Hazue R, Ueno T, Nozaki H, Kinowaki K, Ohashi K, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y. Syphilis-associated membranous nephropathy successfully treated with amoxicillin. *Clin Nephrol* 96(5): 297-301, 2021.

5) Yamaguchi T, Costabel U, McDowell A, Guzman J, Uchida K, Ohashi K, Eishi Y. Immunohistochemical Detection of Potential Microbial Antigens in Granulomas in the Diagnosis of Sarcoidosis. *J Clin Med* 10(5): 983, 2021.

6) Isshiki T, Homma S, Eishi Y, Yabe M, Koyama K, Nishioka Y, Yamaguchi T, Uchida K, Yamamoto K, Ohashi K, Arakawa A, Shibuya K, Sakamoto S, Kishi K. Immunohistochemical Detection of Propionibacterium acnes in Granulomas for Differentiating Sarcoidosis from Other Granulomatous Diseases Utilizing an Automated System with a Commercially Available PAB Antibody. *Microorganisms* 9(8): 1668, 2021.

7) Fukuda M, Sawa N, Hoshino J, Ohashi K, Motoaki M, Ubara Y. Tocilizumab preserves renal function in rheumatoid arthritis with AA amyloidosis and end-stage kidney disease: Two case reports. *Clin Nephrol* 95(1): 54-61, 2021.

8) Watanabe S, Sawa N, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Hoshino J, Kinowaki K, Ohashi K, Fujii T, Yamaguchi Y, Ubara Y. Development of osmotic vacuolization of proximal tubular epithelial cells following treatment with sodium-glucose transport protein 2 inhibitors in type II diabetes mellitus patients-3 case reports. *CEN Case Rep* 10(4): 563-569, 2021.

9) 大橋 健一. アミロイドーシスの病理診断. 診

断病理 38(3): 226-239, 2021

畠山金太

1) 池田 善彦, 内木 宏延. 心アミロイドーシス. *病理と臨床* 39(10): 988-992, 2021.

安倍正博

1) Harada T, Hiasa M, Teramachi J, Abe M. Myeloma-Bone Interaction: A Vicious Cycle via TAK1-PIM2 Signaling. *Cancers (Basel)* 13(17): 4441, 2021.

2) Hiasa M, Harada T, Eiji Tanaka, Abe M. Pathogenesis and treatment of multiple myeloma bone disease. *Jpn Dent Sci Rev* 57: 164-173, 2021.

3) Sumitani R, Hori T, Murai J, Kawata S, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Miki H, Kagawa K, Abe M, Nakamura S. Acute Myeloid Leukemia Developing with Acute Pancreatitis Mimicking Autoimmune Pancreatitis. *Intern Med* 60(11): 1753-1757, 2021.

4) Takashi Y, Sawatsubashi S, Endo I, Ohnishi Y, Abe M, Matsuhisa M, Kawanami D, Matsumoto T, Fukumoto S. Skeletal FGFR1 signaling is necessary for regulation of serum phosphate level by FGF23 and normal life span. *Biochem Biophys Res* 27: 101107, 2021.

5) Tanimoto K, Hiasa M, Tenshin H, Teramachi J, Oda A, Harada T, Higa Y, Sogabe K, Oura M, Sumitani R, Hara T, Itsuro Endo, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. Mechanical unloading aggravates bone destruction and tumor expansion in myeloma. *Haematologica* 107(3): 744-49, 2022.

6) Tenshin H, Teramachi J, Ashtar M, Hiasa M, Inoue Y, Oda A, Tanimoto K, Shimizu S, Higa Y, Harada T, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Sebe M, Tsutsumi R, Sakaue H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. TGF- β -activated kinase-1 inhibitor LL-Z1640-2 reduces joint inflammation and bone destruction in mouse models of rheumatoid arthritis by inhibiting NLRP3 inflammasome, TACE, TNF- α and RANKL expression. *Clin Transl Immunology* 11(1): e1371, 2022.

7) Takei M, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S,

Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y. A Genome-Wide Association Study Predicts the Onset of Dysgeusia Due to Anti-cancer Drug Treatment. *Biol Pharm Bull* 45(1): 114-117, 2022.

8) Fuchida S, Kawamura K, Sunami K, Tsukada N, Fujii S, Ohkawara H, Usuki K, Wake A, Endo S, Ishiyama K, Ueda Y, Nakamura Y, Miyamoto T, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Takamatsu H. Retrospective Analysis of Autologous Stem Cell Transplantation for AL Amyloidosis: A Study from the Multiple Myeloma Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. *Transplant Cell Ther* 28(2): 76-82, 2022.

鈴木憲史

1) Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Suzuki K, Bensinger W, et al. Daratumumab-Based Treatment for Immunoglobulin Light-Chain Amyloidosis. *N Engl J Med* 385(1): 46-58, 2021.

2) Moreau P, Dimopoulos MA, Suzuki K, Risse ML, Martin T, et al; Isatuximab, carfilzomib, and dexamethasone in relapsed multiple myeloma (IKEMA): a multicentre, open-label, randomised phase 3 trial. *Lancet* 397(10292): 2361-2371, 2021.

3) Knop S, Mateos MV, Dimopoulos MA, Suzuki K, Cavo M, et al. Health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma ineligible for stem cell transplantation: results from the randomized phase III ALCYONE trial. *BMC Cancer* 21(1): 659, 2021.

4) Quach H, Nooka A, Samoylova O, Suzuki K, Mateos MV, et al. Carfilzomib, dexamethasone and daratumumab in relapsed or refractory multiple myeloma: results of the phase III study CANDOR by prior lines of therapy. *Br J Haematol* 194(4): 784-788, 2021.

5) Hosen N, Yoshihara S, Suzuki K, Iida S, et al. Expression of activated integrin β 7 in multiple myeloma patients. *Int J Hepatol* 114(1): 3-7, 2021.

6) Matsumoto M, Suzuki K, Kuroda J, Iida S, et al. Pembrolizumab plus pomalidomide and dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma (KEYNOTE-183): subgroup analysis in

Japanese patients. *Int J Hematol* 113(6): 777-784, 2021.

7) Plesner T, Dimopoulos MA, Suzuki K, Gries KS, et al. Health-related quality of life in patients with relapsed or refractory multiple myeloma: treatment with daratumumab, lenalidomide, and dexamethasone in the phase 3 POLLUX trial. *Br J Haematol* 194(1): 132-139, 2021.

8) Facon T, Venner CP, Suzuki K, Rajkumar SV, et al. Oral ixazomib, lenalidomide, and dexamethasone for transplant-ineligible patients with newly diagnosed multiple myeloma. *Blood* 137(26): 3616-3628, 2021.

9) Suzuki K, Sunami K, Matsumoto M, Shimizu K, et al. Phase II, Multicenter, Single-Arm, Open-Label Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Panobinostat in Combination with Bortezomib and Dexamethasone in Japanese Patients with Relapsed or Relapsed-and-Refractory Multiple Myeloma. *Acta Haematol* 144(3): 264-274, 2021.

10) Chari A, Rodriguez-Otero P, McCarthy H, Suzuki K, Touzeau C, et al. Subcutaneous daratumumab plus standard treatment regimens in patients with multiple myeloma across lines of therapy (PLEIADES): an open-label Phase II study. *Br J Haematol* 192(5): 869-878, 2021.

11) Luo MM, Usmani SZ, Mateos MV, Suzuki K, Parasrampur DA, et al. Exposure-Response and Population Pharmacokinetic Analyses of a Novel Subcutaneous Formulation of Daratumumab Administered to Multiple Myeloma Patients. *J Clin Pharmacol* 61(5): 614-627, 2021.

12) Takezako N, Shibayama H, Suzuki K, Iida S, et al. Once-weekly vs. twice-weekly carfilzomib dosing in a subgroup of Japanese relapsed and refractory multiple myeloma patients from a randomized phase 3 trial (A.R.R.O.W.) and comparison with ENDEAVOR. *Int J Hematol* 113(2): 219-230, 2021.

13) Sato K, Okazuka K, Ishida T, Sakamoto J, Kaneko S, Nashimoto J, Uto Y, Ogura M, Yoshiki Y, Abe Y, Maeda A, Hamazaki H, Tsukada N, Hiragohri Y, Suzuki K. Minimal residual disease detection in multiple myeloma: comparison between BML single-tube 10-color multiparameter flow cytometry

and EuroFlow multiparameter flow cytometry. *Ann Hematol* 100(12): 2989-2995, 2021.

14) Suzuki K, et al. Carfilzomib, dexamethasone, and daratumumab in Asian patients with relapsed or refractory multiple myeloma: post hoc subgroup analysis of the phase 3 CANDOR trial. *Int J Hematol* 114(6): 653-663, 2021.

15) Mateos MV, Dimopoulos MA, Cavo M, Suzuki K, et al. Daratumumab Plus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone Versus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone in Transplant-Ineligible Newly Diagnosed Multiple Myeloma: Frailty Subgroup Analysis of ALCYONE. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 21(11): 785-798, 2021.

16) Kimura K, Tsukamoto S, Miyazaki K, Kawajiri-Manako C, Ishii A, Rahmutulla B, Fukuyo M, Oshima-Hasegawa N, Mitsukawa S, Takeda Y, Mimura N, Takeuchi M, Ohwada C, Iseki T, Matsusaka K, Sanada M, Yokote K, Kaneda A, Ishida T, Suzuki K, et al. Identification of clonal immunoglobulin λ light-chain gene rearrangements in AL amyloidosis using next-generation sequencing. *Exp Hematol* 101-102: 34-41.e4, 2021.

河野 和

1) Fujimoto Y, Ueno S, Oda K, Gunda N, Shimomura Y, Nishimura Y, Yamaguchi A, Kuwano A, Ito Y, Baba Y, Nishigaki A, Michiwaki N, Uchino S, Kurogi K, Kawano Y, Matsuoka M, Saito H, Okuno Y, Jono H. Relationship between serum bortezomib concentration and emergence of diarrhea in patients with multiple myeloma and/or AL amyloidosis. *Cancers* 13(22): 5674, 2022.

山本 卓

1) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Nitami S, Narita I. Fear of falling and physical activity in hemodialysis patients: a pilot study. *Renal Replace Ther* 7: 63, 2021.

2) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Igarashi K, Narita I. Comparison of muscle strength between hemodialysis patients and

non-dialysis patients with chronic kidney disease. *J Phys Ther Sci* 33(10):742-747, 2021.

3) Kitabayashi K, Yamamoto S, Katano Y, Giustini K, Ei I, Ishii Y, Narita I. Locomotive Syndrome in Hemodialysis Patients and its Association with Quality of Life – A Cross-Sectional Study –. *Renal Replace Ther* 7: 36, 2021.

4) Yamamoto S, Sasahara K, Domon M, Yamaguchi K, Ito T, Goto S, Goto Y, Narita I. pH-Dependent Protein Binding Properties of Uremic Toxins In Vitro. *Toxins (Basel)* 13(2): 116, 2021.

5) Komaba H, Zhao J, Yamamoto S, Nomura T, Fuller DS, McCullough KP, Evenepoel P, Christensson A, Zhao X, Alruhaimi M, Al-Ali F, Young EW, Robinson BM, Fukagawa M. Secondary hyperparathyroidism, weight loss, and longer term mortality in haemodialysis patients: results from the DOPPS. *J Cachexia Sarcopenia Muscle* 12(4): 855-865, 2021.

6) Wakamatsu T, Iwasaki Y, Yamamoto S, Matsuo K, Goto S, Narita I, Kazama JJ, Tanaka K, Ito A, Ozasa R, Nakano T, Miyakoshi C, Onishi Y, Fukuma S, Fukuhara S, Yamato H, Fukagawa M, Akizawa T. Type I Angiotensin II Receptor Blockade Reduces Uremia-Induced Deterioration of Bone Material Properties. *J Bone Miner Res* 36(1): 67-79, 2021.

7) 山本 卓. 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常 (血管石灰化、アミロイド骨関節症を含む). *今日の治療指針2022年版* 640-643, 2022.

坂井健二

1) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Ikeda T, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M. Cerebrospinal fluid cytokines and metalloproteinases in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *Acta Neurol Scand* 143: 450-457, 2021.

2) Sakai K, Yamada M. Cerebral amyloid angiopathy-related inflammation and dementia. *Clin Exp Neuroimmunol* 12: 101-106, 2021.

3) Hamaguchi T, Kim JH, Hasegawa A, Goto R, Sakai K, Ono K, Itoh Y, Yamada M. Exogenous A β seeds induce A β depositions in the blood vessels rather than the brain parenchyma, independently of A β

strain-specific information. *Acta Neuropathol Commun* 9: 151, 2021.

4) Yamaguchi H, Kawahara H, Kodera N, Kumaki A, Tada Y, Sakai K, Ono K, Yamada M, Hanayama R. Extracellular vesicles contribute to the metabolism of transthyretin amyloid in hereditary transthyretin amyloidosis. *Front Mol Biosci* 9: 839917, 2022.

5) 坂井 健二, 濱口 毅, 山田 正仁. 臨床医のための神経病理再入門 脳アミロイドアンギオパチー. *Clinical Neuroscience* 39: 132-134, 2021.

6) 坂井 健二, 山田 正仁. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症・血管炎. *BRAIN NERVE* 73: 489-495, 2021.

7) 坂井 健二. 高血圧性以外の脳小血管病: 脳アミロイドアンギオパチー, CADASIL, CARASIL・HDLS. 山田 正仁 (編), *認知症診療実践ハンドブック改訂第2版*, 中外医学社, 東京, 311-325, 2021.

2. 学会発表

内木宏延

1) 内木 宏延. ヒト全身性アミロイドーシス: 発症の分子機構と病理組織学的診断. 第110回日本病理学会総会 (腎アミロイドーシス診断、治療のトピックス), Web 開催, 4,22-24, 2021.

2) 内木 宏延. 心アミロイドーシスの病理組織学的診断: 免疫染色の重要性とアミロイドーシスに関する調査研究班のコンサルテーション体制について. 第42回心筋生検研究会学術集会, 吹田市, 6,12, 2021.

3) 武笠 結天, 袴田 圭祐, 升本 英利, 新谷 祈, 外山 友美子, 辻 崇, 徳平 壮一郎, 星野 真人, 八木 直人, 杉山 将大, 葦澤 崇, Jean-Paul Duong Van Huyen, Marion Rabant, Patrick Bruneval, 内木 宏延, 湊谷 謙司, 植田 初江, 池川 雅哉. 大型放射光施設 SPring-8 の X 線位差 CT を用いた心・腎アミロイドーシス組織の構造解析とイメージング質量分析法を用いた組織プロテオーム解析の統合. 第42回心筋生検研究会学術集会, 吹田市, 6,12, 2021.

4) 内木 宏延. アミロイドーシス発症の分子機構. 第41回日本画像医学会学術集会 (肺アミロイドーシス), Web 開催, 2,18-19, 2022.

安東由喜雄

- 1) Ando Y. Establishment of Kumamoto amyloidosis center in Japan. International Amyloidosis Society Virtual Symposium, web, 5,5, 2021.
- 2) 安東 由喜雄. 21世紀の疾患アミロイドーシスこれまでの歩みとこれから. 第3回 Pfizer web シンポジウム, Web 開催, 熊本, 6,10, 2021.
- 3) 安東 由喜雄. ATTR の発見から治療に至る過程で今、何が問題になっているか. Medical Advisory Board Meeting, web 開催, 6,27, 2021.
- 4) 安東 由喜雄. ATTRv amyloidosis の臨床像. Medical Advisory Board Meeting, web 開催, 8,28, 2021.
- 5) 安東 由喜雄. 見つかる疾患から見つけ、治療する疾患へ. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス web セミナー in 九州, web 開催, 9,28-30, 2021.

関島良樹

- 1) Sekijima Y. Central neurological manifestations. 3rd European ATTR Amyloidosis meeting for Patients and Doctors, Web 開催, 9,6-8, 2021.
- 2) Sekijima Y. Recent progress in the Diagnosis and Treatment of ATTR Amyloidosis. 第85回日本循環器学会学術集会, 横浜市, 3,26, 2021.
- 3) 関島 良樹. 高齢者の手根管症候群に潜む ATTR アミロイドーシスの早期診断. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
- 4) 関島 良樹. 神経内科医が知っておくべきトランスサイレチン型アミロイドーシスの診断と治療最前線. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
- 5) 関島 良樹. 家族性アミロイドーシスに対するパチシランの臨床. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,22, 2021.
- 6) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシスの病態解明と治療の最先端. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 5,27-29, 2021.
- 7) 関島 良樹. ATTRv アミロイドーシスの治療ゴールを見据えた早期診断の重要性と siRNA 治療薬への期待. 第31回日本心臓核医学会総会・学術大会, Web 開催, 6,25-26, 2021.
- 8) 関島 良樹. 進化を遂げる遺伝性 ATTR アミロイドーシス治療. 日本人類遺伝学会 66 回大会, 横

浜市, 10,13-16, 2021.

- 9) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシス治療の最前線. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.
- 10) 関島 良樹. 日常診療に潜む ATTRv アミロイドーシス. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.
- 11) 関島 良樹. 肝移植後長期生存例に多発する脳アミロイドアンギオパチー. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
- 12) 中村 勝哉, 石川 真澄, 黄瀬 恵美子, 小島 彰子, 古庄 知己, 関島 良樹. 新規治療方法の進展が TTR-FAP における遺伝カウンセリングに与えた影響. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,19, 2021.
- 13) Sekijima Y, Obici L, Conceicao I, Polydefkis M, Gillmore J, Berber E, White MT, Wang JJ, Berk J. Long-term, Integrated Safety of Patients with ATTRv Amyloidosis with Polyneuropathy. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
- 14) Katoh N, Abe R, Takahashi Y, Nakao S, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Sekijima Y. Distribution of amyloidosis subtypes involving the peripheral nerve. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
- 15) 花岡 康子, 立花 直子, 石井 恵子, 中尾 聡, 橋本 隆男, 関島 良樹. 当院で経験した脳アミロイドアンギオパチー4例: 臨床経過とステロイド治療効果の検討. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
- 16) 高橋 佑介, 望月 祐介, 中尾 聡, 近藤 恭史, 加藤 修明, 関島 良樹. パチシランを用いた遺伝性 ATTR アミロイドーシスに対する治療経験. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,21, 2021.
- 17) 柴田 有花, 松島 理明, 加藤 ももこ, 竹内 恵, 張 香理, 中村 勝哉, 織田 克利, 吉田 邦広, 関島 良樹, 戸田 達史, 矢部 一郎. 成人発症の遺伝性神経・筋疾患における発症前診断に関する全国調査. 第62回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,22, 2021.
- 18) 平野 陽子, 石井 朝憲, 松本 紀子, 高田 亜実, 関島 良樹, 植田 光春, 安東 由喜雄. トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー

患者を対象としたタフファミジス特定使用成績調査（中間解析結果）と患者プロフィール. 第32回日本末梢神経学会学術集会, 和歌山市, 9,10, 2021.

19) 星野 優美, 小平 農, 大橋 信彦, 森田 洋, 関島 良樹. 低域遮断フィルター設定が遺伝性 ATTR アミロイドーシス患者の上肢における遠位部複合筋活動電位の持続時間に与える影響. 第32回日本末梢神経学会学術集会, 和歌山市, 9,10, 2021.

20) 関島 良樹, ポリデフキス マイケル, ティカウ シミーナ, エルベ デイビッド, マクマナス アナスタシア, アルディンク エムリー, アダムス デイビッド, ライリー メアリー, ヴァイシュナウ アクシャイ, ニオイ ポール. 遺伝性 ATTR アミロイドーシスにおいて NfL は治療効果のバイオマーカーとなりうる: Patisiran APOLLO OLE 試験データ. 第32回日本末梢神経学会学術集会, 和歌山市, 9,10, 2021.

21) Sekijima Y, Polydefkis M, Ticao S, Erbe D, McManus A, Aldinc E, Adams D, Reilly MM, Vaishnaw A, Nioi P. NfL as a Potential Biomarker of Treatment Response in hATTR Amyloidosis. From Patisiran OLE Study. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.

22) Ueda M, Adams D, Tournev IL, Taylor MS, Coelho T, Plante-Bordeneuve V, Berk JL, Gonzalez-Duarte A, Gillmore JD, Soon-Chai L, Sekijima Y, Obici L, Blakesley R, Arum S, Shilling R, Vest J, Polydefkis M. HELIOS -A: Phase 3 Study of Vutrisiran in Patients with ATTRv Amyloidosis with Poly-neuropathy. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.

23) 矢崎 正英, 中川 真優子, 加藤 修明, 関島 良樹, 亀谷 富由樹. AH アミロイドーシスの簡便な診断法の確立 —診断用抗免疫グロブリン重鎖抗体の開発への挑戦. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

24) 上野 晃弘, 星野 優美, 池田 淳司, 望月 祐介, 加藤 修明, 関島 良樹. 全身性 AL アミロイドーシスに対する daratumumab の使用経験. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

25) 松浦 徹, 三浦 久美子, 関島 良樹, 山田 敏幸. 遺伝性 ATTR (ATTRv) アミロイドーシス (G47

R変異) の中枢神経症状. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

26) 関島 良樹, Adams D, Taylor MS, Coelho T, Gillmore JD, Soon-Chai L, Obici L, Blakesley R, Arum S, Shilling R, Vest J, Polydefkis M.

HELIOS-A : 9-Month Subgroup Analysis Exploratory Results from The Phase 3 Study of Vutrisiran in Patients with Hereditary Transthyretin Mediated Amyloidosis with Polyneuropathy. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

27) 望月 祐介, 上野 晃弘, 加藤 修明, 関島 良樹. 非常に高度な全身の軟部組織浸潤を認めた AL アミロイドーシスの 57 歳、女性例. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

28) 高橋 佑介, 近藤 恭史, 加藤 修明, 関島 良樹. 原発性全身性 AL アミロイドーシスと野生型 ATTR アミロイドーシスを合併した 81 歳男性例. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

29) 加藤 修明, 吉長 恒明, 矢崎 正英, 草場 哲郎, 山野 哲弘, 宮川 文, 関島 良樹. 世界3家計目となる遺伝性 A β 2M アミロイドーシスの兄弟例 (第1報). 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

島崎千尋

1) 島崎 千尋. AL アミロイドーシスの早期診断と最新治療. 「見逃し厳禁! アミロイドーシスの早期診断と治療法の進歩」. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 5,20, 2021.

2) 淵田 真一, 井出 大輔, 太田 沙絵子, 初瀬 真弓, 岡田 厚, 島崎 千尋. 心臓 99mTc ピロリン酸シンチグラフィ陽性 AL アミロイドーシスの 1 例. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

3) 淵田 真一, 小倉 瑞生, 石田 禎夫, 畑 裕之, 半田 寛, 加藤 修明, 中世古 知昭, 角南 一貴, 片山 雄太, 野畑 宏信, 大城 一郁, 飯田 真介, 関島 良樹, 内木 宏延, 島崎 千尋. アミロイドーシス調査研究班による IgM 型 AL アミロイドーシス 21 例の後方視的解析. 第46回日本骨髄腫学会学術集会, 東京, 5,29-30, 2021.

4) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C,

Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Vermeulen J, Comenzo RL, Kastritis E, Lu J. Subcutaneous daratumumab + bortezomib/cyclophosphamide/dexamethasone (D-VCD) in newly diagnosed AL amyloidosis: Asian subgroup analysis from ANDROMEDA. 第46回日本骨髄腫学会学術集会, 東京, 5,29-30, 2021.

5) Comenzo R, Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Wechalekar AD, Jaccard A, Sanchowala V, Lee HC, Gibbs S, Mollee P, Venner CP, Lu J, Gatt ME, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Chauveau D, Dimopoulos MA, Tsukada N, Shimazaki C, Katoh N, Pei H, Weiss BM, Merlini G. Daratumumab/bortezomib/cyclophosphamide/dexamethasone (D-VCd) for pts with AL amyloidosis: ANDROMEDA. 第83回日本血液学会学術集会, 仙台, 9,23-25, 2021.

飯田真介

1) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Vermeulen J, Comenzo RL, Kastritis E, Lu J. Subcutaneous Daratumumab + Bortezomib / Cyclophosphamide / Dexamethasone (D-VCd) in Newly Diagnosed AL Amyloidosis: Asian Subgroup Analysis from ANDROMEDA. 第46回日本骨髄腫学会学術総会, Web開催, 5,29-30, 2021.

小池春樹

- 1) Koike H. Pathophysiology of CIDP: Insights into classification and therapeutic strategy. 2022 TNS-PNS Winter Symposium, Taipei, Taiwan, 2,20, 2022.
- 2) Koike H. Pathology of nodal complex in CIDP. 16th International Congress on Neuromuscular Diseases. オンライン開催, 5,21-22, 2021.
- 3) 小池 春樹. Case/ATTR アミロイドーシス: 手足のしびれ、下痢/便秘、手根管症候群. 第24回病院総合診療医学会学術総会. オンライン開催, 2,26, 2022.
- 4) 小池 春樹. 末梢神経疾患の診断と治療 update.

第62回日本神経学会学術大会. 京都, 5,19-22, 2021.

5) 小池 春樹. Reassemble polyneuropathy according to the ultrastructural characteristics. 第62回日本神経学会学術大会. 京都, 5,19-22, 2021.

星野純一

1) 波多野 雅貴, 星野 純一, et al. 長期血液透析に伴う手根管症候群に対する初回手根管開放術時の血液透析年数の歴史的変遷. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

山田俊幸

- 1) 川口 公平, 佐藤 純司, 山田 俊幸. AA アミロイドーシスにおける沈着 AA 蛋白の翻訳後修飾分析. 第61回日本臨床化学会年次学術集会, 福岡市, 11,5, 2021.
- 2) 旭 由香里, 稲森 彩香, 山田 俊幸. 動物 SAA 測定試薬 VET-SAA 'Eiken' Reagent を用いた臨床検体の有用性評価. 第61回日本臨床化学会年次学術集会, 福岡市, 11,5, 2021.
- 3) 黒田 毅, 上家 潤一, 伊藤 由美, 今井 直史, 長谷川 絵里子, 佐藤 広恵, 小林 大介, 中枝 武司, 和田 庸子, 中野 正明, 成田 一衛, 山田 俊幸. 腎組織に組織学および生化学的に特異な SAA 蛋白のサブタイプを認めた関節リウマチ合併 AA アミロイドーシスの1例. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.
- 4) 川口 公平, 佐藤 純司, 奥田 恭章, 黒田 毅, 山田 俊幸. 組織沈着 AA 蛋白におけるメチオニン酸化の分析. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

奥田恭章

1) 奥田 恭章. コーヒーブレイクセミナー: 臨床研究の紹介 リウマチ性疾患の呼吸器・AA アミロイドーシスを中心に 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

小野賢二郎

1) Ono K. HMW A β oligomers are important targets for disease modifying approach of Alzheimer's disease. FASEB The Protein Aggregation Conference:

Function, Dysfunction, and Disease, Virtual Conference, 6,3-25, 2021.

2) Kimura A, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Umino M, Umino A, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Tsuji M, Ono K. Myricetin prevents A β oligomers-induced neurotoxicity via cell membrane damage. 15th International Conference on Alzheimer's & Parkinson's Diseases, Virtual Conference, 3,9-14, 2021.

3) Watanabe-Nakayama T, Tsuji M, Oguchi T, Ono K. Video imaging of structural dynamics of amyloid β protofibrils. Alzheimer's Association International Conference AAIC2021, Denver, 7,26-30, 2021.

4) 小野 賢二郎. A β オリゴマーに焦点を当てたアルツハイマー病へのアプローチ. 第62回日本神経学会学術大会, 京都 (現地・WEB), 5,19-22, 2021.

5) 小野 賢二郎. 抗 A β 療法の現状と展望. 第39回日本神経治療学会学術集会, 三重 (現地・WEB), 10,28-30, 2021.

6) 小野 賢二郎. 認知症領域におけるプロテインパチーの病因解明 Up to Date. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京 (現地・WEB), 11,26-28, 2021.

7) 大橋 英朗, 辻 まゆみ, 小口 達敬, 門馬 佑太郎, 野原 哲人, 井藤 尚仁, 山本 譲, 永田 未希, 小野 賢二郎, 木内 祐二. クルクミンとフェルラ酸のアミロイド β 凝集および神経細胞傷害への相対的効果. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京 (現地・WEB), 11,26-28, 2021.

8) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 池田 篤平, 濱口 毅, 小野 賢二郎, 山田 正仁. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症の脳脊髄液における炎症関連マーカーの解析. 第46回日本脳卒中学会学術集会, 福岡 (現地・WEB), 3,11-13, 2021.

9) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 池田 篤平, 濱口 毅, 小野 賢二郎, 山田 正仁. Cerebrospinal fluid inflammatory markers in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. 第62回日本神経学会学術大会, 京都 (現地・WEB), 5,19-22, 2021.

10) 野元 祥平, 安本 太郎, 正路 大樹, 高橋 聖也, 刑部 祐友子, 杉本 あずさ, 小野 賢二郎, 馬場 康彦. 自然軽快したアミロイドアンギオパチー関連脳症疑いの84歳女性例. 第237回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 6,5, 2021.

11) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Kasuga K, Murakami H, Ikeuchi T, Ono K. Cingulate island sign in SPECT: clinical biomarker correlations in LBD and AD. 第62回日本神経学会学術大会, 京都 (現地・WEB), 5,19-22, 2021.

12) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Kasuga K, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Tsuji M, Ikeuchi T, Irie K, Ono K. Toxic A β ₄₂ conformer may accelerate the AD onset in the preclinical stage. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京 (現地・WEB), 11,26-28, 2021.

13) 門馬 佑太郎, 辻 まゆみ, 小口 達敬, 野原 哲人, 大橋 英朗, 井藤 尚仁, 山本 譲, 永田 未希, 中村 史朗, 小野 賢二郎, 木内 祐二. A β 高分子 oligomer 誘発性細胞傷害に対する新規治療薬 GT863 の保護作用. 第40回日本認知症学会学術集会, 東京 (現地・WEB), 11,26-28, 2021.

北岡裕章

1) 杉浦 健太, 久保 亨, 越智 友梨, 馬場 裕山崎 直仁, 北岡 裕章. 野生型トランスサイレチン心アミロイドーシスの早期診断の取り組み. 第63回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 6,11, 2021.

田原宣広

1) 田原 宣広, 戸次 宗久, 田原 敦子, 緒方 詔子, 杵山 陽一, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘. FDG-PET イメージングによる動脈硬化プラークの分子学的評価. 第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会, Web 開催, 10,23-24, 2021.

2) 田原 宣広, 戸次 宗久, 田原 敦子, 緒方 詔子, 杵山 陽一, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘. 心臓サルコイドーシスにおける FDG-PET の重要性 Update. 第41回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, Web 開催, 10,29-30, 2021.

遠藤 仁

1) 遠藤 仁. トランスサイレチン心アミロイドーシスの現状と今後の展望. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

2) 遠藤 仁. アミロイドは積極的にスクリーニン

- グすべきか？ 第25回日本心不全学会学術集会, Web開催, 10,1-3, 2021.
- 3) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの早期診断と最新治療. 第62回日本神経学会学術大会, Web開催, 5,19-22, 2021.
- 4) 遠藤 仁. ALアミロイドーシス診療における循環器内科の役割と他科の連携. 第83回日本血液学会学術集会, Web開催, 9,23-25, 2021.
- 5) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの早期診断に向けての整形外科・循環器内科の新たな診療連携. 第14回日本運動器疼痛学会, Web開催, 11,24, 2021.
- 6) 遠藤 仁. 循環器疾患の最新治療:心アミロイドーシスの診断と治療の進歩. 第45回日本心臓病学会教育セミナー, Web開催, 6,13, 2021.
- 7) 遠藤 仁. Forefront of Treatment for Cardiac Amyloidosis: Diagnosis and treatment of ATTRwt cardiac amyloidosis in Japan. 第85回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3,26-28, 2021.
- 8) 遠藤 仁. 心アミロイドーシス診断・治療における循環器内科医の役割. 第85回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3,26-28, 2021.
- 9) 遠藤 仁. 革新するATTR心アミロイドーシスの診断と治療. 第85回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3,26-28, 2021.
- 10) 遠藤 仁. 組織リモデリングをコントロールする新たな ω 3脂肪酸代謝物. 第21回動脈硬化教育フォーラム, Web開催, 2,14, 2021.
- 11) 遠藤 仁. Shadows and light of lipid metabolites in heart disease. 第37回国際心臓研究学会日本部会シンポジウム, Web開催, 3,12, 2021.
- 12) 遠藤 仁. 進化する心アミロイドーシス治療. 日本心エコー図学会第32回学術集会, Web開催, 4,23-25, 2021.

大橋健一

- 1) 澤 直輝, 大橋 健一. 腎アミロイドーシス診断、治療のトピックス ALアミロイドーシスの診断と治療のUp to date. 日本病理学会総会, web開催, 4,22-24, 2021.

畠山金太

- 1) 池田善彦. アミロイドーシス教育プログラム.

第42回心筋生検研究会学術集会, 現地およびWeb開催, 吹田市, 6,12, 2021.

- 2) 池田 善彦. アミロイドーシスを含めた二次性心筋症の診断—TGCVとの鑑別. 第4回中性脂肪学会学術集会, 現地およびWeb開催, 吹田市, 12,4, 2021.

安倍正博

- 1) Miki H, Shingen N, Nakamura M, Mizuguchi M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Kagawa K, Hamano H, Kondo M, Okada N, Bando Y, Endo I, Abe M. The importance of retaining physical functions to prevent skeletal-related events in multiple myeloma patients with bone disease. ECTS 2021 Digital Congress, 3,8, 2021.
- 2) Miki H, Nakamura S, Nakamura M, Mizuguchi M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Kagawa K, Hamano H, Kondo M, Okada N, Bando Y, Endo I, Abe M. The importance of retaining physical functions to prevent SRE in multiple myeloma. 第46回日本骨髄腫学会学術集会, 福島+web, 5,29, 2021.
- 3) Miki H, Nakamura S, Nakamura M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Nishio S, Tomonari T, Abe M. Assessment of liver stiffness with shear wave elastography for hepatic AL amyloidosis. 18th International Myeloma Workshop, Vienna, 9,8-11, 2021.
- 4) Miki H, Nakamura S, Fujii S, Nakamura M, Mizuguchi M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Kagawa K, Nishio S, Tomonari T, Abe M. Diagnostic efficacy of non-invasive ultrasound shear wave elastography for hepatic AL amyloidosis. 第83回日本血液学会学術集会, 仙台+web, 9,23-25, 2021.
- 5) 中村 昌史, 三木 浩和, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 高橋 真美子, 原田 武志, 藤井 志朗, 中村 信元, 西尾 進, 友成 哲, 安倍 正博. ALアミロイドーシスの肝病変の評価における超音波エラストグラフィの有用性. 第61回日本血液学会中国四国地方会, 山口+web, 3,19,

2022.

河野 和

- 1) 河野 和, 畑 裕之, 松岡 雅雄. 多発性骨髄腫に合併したALアミロイドーシス症例に対するDRd療法の可能性. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,29, 2021.
- 2) 河野 和: ALアミロイドーシス診療の過去・現在、そしてこれから. 第8回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,29, 2021.

山本 卓

- 1) Yamamoto S, Yamamoto K, Hirao Y, Goto S, Yamamoto T, Gejyo F, Narita I. Mass spectrometry-based proteomic analysis of adsorbed molecules in a hexadecyl-immobilized cellulose beads column for the treatment of dialysis-related amyloidosis. *Kidney Week 2021*, Web 開催, 11,4-7, 2021.
- 2) 山本 卓, 白井 信行, 北林 紘, 成田 一衛. 運動機能面から. 第64回日本腎臓学会学術総会, Web 開催, 6,21, 2021.
- 3) 山本 卓, 成田 一衛. 保存期においてPTH管理は必要か? Pro 第64回日本腎臓学会学術総会, Web 開催, 6,21, 2021.
- 4) 山本 卓, 山口 圭一, 土門 美緒, 伊藤 徹, 後藤 眞, 後藤 祐児, 成田 一衛. pHによるウレミックトキシンの蛋白結合能の変化. 第64回日本腎臓学会学術総会, Web 開催, 6,19, 2021.

坂井健二

- 1) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 池田 篤平, 濱口 毅, 小野 賢二郎, 山田 正仁. Cerebrospinal fluid inflammatory markers in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. 第62回日本神経学会学術大会, 京都 (現地・Web), 5,19-22, 2021.
- 2) 石田 千穂, 駒井 清暢, 坂井 健二, 川島 篤弘, 北島 信治, 原田 ゆかり, 岩佐 和夫, 山田 正仁. 多系統萎縮症を合併した遺伝性ATTRアミロイドーシスの1剖検例. 第62回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 5,27-29, 2021.
- 3) 坂尻 顕一, 清水 愛, 坂井 健二, 新田 永俊.

脳アミロイドアンギオパチー関連炎症疑いの1例. 第93回石川脳血管障害研究会, Web 開催, 9,4, 2021.

- 4) 久後 信也, 清水 愛, 坂尻 顕一, 新田 永俊, 坂井 健二. ステロイド治療が有効であった脳アミロイドアンギオパチー関連炎症疑いの1例. 第245回日本内科学会北陸地方会, 金沢 (現地・Web), 9,5, 2021.
- 5) 坂井 健二. 脳アミロイドアンギオパチー: 最近のトピックス. 第23回中部老年期認知症研究会, Web 開催, 1,29, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)**1. 特許取得****安東由喜雄**

発明の名称: トランスサイレチン四量体安定化剤、及び、トランスサイレチンアミロイドーシス予防剤又は進行抑制剤

出願番号: PCT/JP2021/037039, PCT/JP2021/037040

出願人: 国立大学法人 熊本大学; 株式会社カネカ; 学校法人九州文化学園 長崎国際大学

出願年月日: 令和3年10月6日

権利者(発明者): 植田 光晴, 増田 曜章, 三隅 洋平, 澤下 仁子, 安東 由喜雄, 松下 博昭

植田光晴

発明の名称: トランスサイレチン四量体安定化剤、及び、トランスサイレチンアミロイドーシス予防剤又は進行抑制剤

整理番号: 20032PC09, 20033PC09 (P C T)

出願番号: PCT/JP2021/037039, PCT/JP2021/037040

出願人: 国立大学法人 熊本大学; 株式会社カネカ; 学校法人九州文化学園 長崎国際大学

出願年月日: 令和3年10月6日

権利者(発明者): 植田 光晴, 増田 曜章, 三隅 洋平, 澤下 仁子, 安東 由喜雄, 松下 博昭

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
関島 良樹	アミロイドニューロパチー	福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成	今日の治療方針 私はこう治療している	医学書院	東京	2021	1014-1015
関島 良樹	RNA 干渉による遺伝性 ATTR アミロイドーシス治療	鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭	Annual Review 神経 2021	中外医学社	東京	2021	302-309
関島 良樹	遺伝性アミロイドーシス	蒔田 芳男, 櫻井 晃洋	臨床遺伝専門医テキスト④各論III 臨床遺伝学成人領域	株式会社診断と治療社	東京	2021	94-97
関島 良樹	脳アミロイドアンギオパチー	下畑 享良	脳神経内科診断ハンドブック	中外医学社	東京	2021	37-41
関島 良樹	アミロイドーシスによる神経障害	下畑 享良	脳神経内科診断ハンドブック	中外医学社	東京	2021	288-292
小池 春樹	その他のニューロパチー (糖尿病性, 傍腫瘍性, 薬剤性ニューロパチー)	永田 栄一郎, 伊藤 義彰	脳神経内科学レビュー 2022-'23	総合医学社	東京	2022	235-240
小池 春樹	多発ニューロパチー	福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成	今日の治療指針 2022 年版	医学書院	東京	2022	1009
小池 春樹	免疫介在性ニューロパチーの超微形態学	鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭	Annual Review 神経 2021	中外医学社	東京	2021	294-301
小池 春樹	限局性血管炎に伴う神経障害	下畑 享良	脳神経内科診断ハンドブック	中外医学社	東京	2021	559-562
山田 俊幸	臨床検査を使いこなす, 血清タンパク.	矢富 裕	日本医師会雑誌 第150 巻・特別号(1)	日本医師会	東京	2021	95-101
小野 賢二郎	認知症診療に必要な神経科学の基礎知識.	山田 正仁	認知症診療実践ハンドブック改訂 2 版	中外医学社	東京	2021	24-33
小野 賢二郎	Alzheimer 病.	園生 雅弘, 北川 一夫, 青木 正志	最新の治療 2021-2023 年	南江堂	東京	2021	169-170
小野 賢二郎	アルツハイマー病とアミロイドβの現在.	鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭	Annual Review 神経 2021	中外医学社	東京	2021	130-136

北岡 裕章	二次性心筋症の鑑別診断へのアプローチ	北岡 裕章	医学のあゆみ 二次性心筋症	医歯薬出版株式会社	東京	2021	328-334
北岡 裕章	心筋症の概念	北岡 裕章	心筋症診療のフロン トライン	医学書院	東京	2021	6-12
遠藤 仁	心臓アミロイドーシス	筒井 裕之	ザ・ベーシックメソッド心不全薬物治療	メジカルビューー	東京	2021	209-214
山本 卓	慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常（血管石灰化、アミロイド骨関節症を含む）	福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成	今日の治療指針 2022 年度版	医学書院	東京	2022	640-643
坂井 健二	高血圧性以外の脳小血管病: 脳アミロイドアンギオパチー, CADASIL, CARASIL・HDLs.	山田 正仁	認知症診療実践ハンドブック改訂第2版	中外医学社	東京	2021	311-325

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tateishi Y, Yamada Y, Katsuki M, Nagata T, Yamamoto H, Kohashi K, Koga Y, Hashisako M, Kiyozawa D, Mori T, Kuboyama Y, Kakinokizono A, Miyazaki Y, Yamaguchi A, Tsutsui H, Ninomiya T, Naiki H, Oda Y	Pathological review of cardiac amyloidosis using autopsy cases in a single Japanese institution.	Pathol Res Pract	227	153635	2021
Fujimoto T, Yamano T, Miyagawa-Hayashino A, Naiki H, Ueda M, Tasaki M, Yamano M, Zen K, Numata S, Matoba S	Case with transthyretin amyloid cardiomyopathy complicated with rapidly progressive aortic stenosis possibly caused by amyloid deposition in the aortic valve.	Circ Cardiovasc Imaging	14(11)	e013357	2021
Tanaka T, Naito T, Midori Y, Nosaka T, Takahashi K, Ofuji K, Matsuda H, Ohtani M, Hiramatsu K, Imamura Y, Yokoyama O, Naiki H, Nakamoto Y	Gastrointestinal AA amyloidosis secondary to chronic pyelonephritis presenting with refractory diarrhea and severe hypoalbuminemia.	Clin J Gastroenterol	14(6)	1642-1648	2021
Shintani-Domoto Y, Ishino K, Naiki H, Sakatani T, Ohashi R	Autopsy case with concurrent transthyretin and immunoglobulin amyloidosis.	Pathol Int	72(1)	65-71	2021

内木 宏延	蓄積病・アミロイドーシス.	病理と臨床	39(臨 増)	266-269	2021
池田 善彦, 内木 宏延	心アミロイドーシス.	病理と臨床	39(10)	988-992	2021
Matsushita H, Isoguchi A, Okada M, Masuda T, Misumi Y, Tsutsui C, Yamaguchi N, Ichiki Y, Sawashita J, Ueda M, Mizuguchi M, Ando Y	Glavonoid, a possible supplement for prevention of ATTR amyloidosis.	Heliyon	7(10)	e08101	2021
Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Ando Y, Ueda M	Metformin attenuates vascular pathology by increasing expression of insulin-degrading enzyme in a mixed model of cerebral amyloid angiopathy and type 2 diabetes mellitus.	Neurosci Lett	762	136136	2021
Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA, Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C, Ruberg FL, Shah SJ, Slart RHJA, Verberne HJ, Bourque JM	ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging.	Circ Cardiovasc	14(7)	e000029	2021
Tasaki M, Lavatelli F, Obici L, Obayashi K, Miyamoto T, Merlini G, Palladini G, Ando Y, Ueda M	Age-related amyloidosis outside the brain: A state-of-the-art review.	Ageing Res Rev	70	101388	2021
Coelho T, Ando Y, Benson MD, Berk JL, Waddington-Cruz M, Dyck PJ, Gillmore JD, Khella SL, Litchy WJ, Obici L, Monteiro C, Tai LJ, Viney NJ, Buchele G, Brambatti M, Jung SW, St L O'Dea L, Tsimikas S, Schneider E, Geary RS, Monia BP, Gertz M	Design and rationale of the global phase 3 NEURO-TTRansform study of antisense oligonucleotide AKCEA-TTR-L(Rx) (ION-682884-CS3) in hereditary transthyretin-mediated amyloid polyneuropathy.	Neurol Ther	10(1)	375-389	2021
Waddington-Cruz M, Wixner J, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Ando Y; THAOS	Characteristics of patients with late- vs. early-onset Val30Met transthyretin amyloidosis from the transthyretin amyloidosis outcomes	Neurol Ther	10(2)	753-766	2021

investigators	survey (THAOS).				
Waddington-Cruz M, Ando Y, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Sekijima Y; THAOS investigators	Feasibility of assessing progression of transthyretin amyloid polyneuropathy using nerve conduction studies: Findings from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS).	J Peripher Nerv Syst	26(2)	160-166	2021
Inoue Y, Ando Y, Misumi Y, Ueda M	Current management and therapeutic strategies for cerebral amyloid angiopathy.	Int J Mol Sci	22(8)	3869	2021
田崎 雅義, 大林 光念, 安東 由喜雄, 植田 光晴	新規アミロイド原因蛋白質 EFEMP1 の同定および本分子の疾患との関連	臨床化学	50(2)	124-129	2021
安東 由喜雄	私の治療「アミロイドーシス」	日本医事新報	5069	41-42	2021
Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Kusama Y, Sano K, Uehara T, Sekijima Y	Somatostatin-derived amyloid deposition associated with duodenal neuroendocrine tumour (NET): a report of novel localised amyloidosis associated with NET	Amyloid	29(1)	64-65	2022
Abe R, Katoh N, Takahashi Y, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Sekijima Y	Distribution of amyloidosis subtypes based on tissue biopsy site - Consecutive analysis of 729 patients at a single amyloidosis center in Japan.	Pathol Int	71(1)	70-79	2021
Aono Y, Hamatani Y, Katoh N, Nakagawa M, Nakamura K, Yazaki M, Kametani F, Iguchi M, Murakami I, Ogawa H, Abe M, Akao M, Sekijima Y	Late-onset Hereditary ATTR Amyloidosis with a Novel p.P63S (P43S) Transthyretin Variant.	Intern Med	60(4)	557-561	2021
Garcia-Pavia P, Bengel F, Brito D, Damy T, Duca F, Dorbala S, Nativi-Nicolau J, Obici L, Rapezzi C, Sekijima Y, Elliott PM	Expert consensus on the monitoring of transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Eur J Heart Fail	23(6)	895-905	2021
Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Uehara T, Sekijima Y	A case of novel amyloidosis: glucagon-derived amyloid deposition associated with pancreatic neuroendocrine tumour.	Amyloid	28(1)	72-73	2021
Yanagisawa S, Takahashi Y, Sasaki J, Takasone K, Yoshie K, Koyama J, Katoh N, Yazaki M, Kuwahara K, Sekijima Y	Absolute quantitative analysis of cardiac amyloidosis using SPECT/CT with ^{99m} Tc-pyrophosphate.	Amyloid	28(3)	213-214	2021

関島 良樹	遺伝性 ATTR アミロイドーシス	Pharma Medica	39(3)	39-43	2021
関島 良樹	アミロイドーシス治療の進歩	日本内科学会雑誌	110(6)	1170-1177	2021
関島 良樹	ATTR アミロイドーシスは決してめずらしい病気ではない	内科	128(3)	617-619	2021
関島 良樹	アミロイドニューロパチー	CLINICAL NEUROSCIENCE	39(11)	1444-1446	2021
中村 勝哉, 関島 良樹	遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリングと発症前診断	臨床神経学	61(9)	588-593	2021
Ueda M	Transthyretin: its function and amyloid formation.	Neurochem Int	155	105313	2022
Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J	Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm.	ESC Heart Fail	8	2647-2659	2021
Yumoto S, Doi K, Higashi T, Shimao Y, Ueda M, Ishihara A, Adachi Y, Ishiodori H, Honda S, Baba H	Intra-abdominal bleeding caused by amyloid transthyretin amyloidosis in the gastrointestinal tract: a case report.	Clin J Gastroenterol	15	140-145	2022
Tasaki M, Oishi T, Ueda M	EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 (EFEMP1) amyloid deposits in the lower rectum from aged patient with bloody stools.	Pathol Int	72(3)	217-218	2022
Benson MD, Berk JL, Dispenzieri A, Damy T, Gillmore JD, Hazenberg BP, Lavatelli F, Picken MM, Röcken C, Schönland S, Ueda M, Westermark P	Tissue biopsy for the diagnosis of amyloidosis: experience from some centres.	Amyloid	29	8-13	2022
Takashio S, Yamada T, Nishi M, Morioka M, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Kaikita K, Tsujita K	Sex-related differences in the clinical characteristics of wild-type transthyretin amyloidosis cardiomyopathy.	J Cardiol	79	50-57	2022

Nakashima N, Takashio S, Morioka M, Nishi M, Hirakawa K, Hanatani S, Masuda T, Ueda M, Tsujita K	Preclinical diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in a patient undergoing carpal tunnel release.	J Cardiol Cases	24	250-253	2021
Oike F, Usuku H, Yamamoto E, Yamada T, Egashira K, Morioka M, Nishi M, Komorita T, Hirakawa K, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Hanatani S, Sueta D, Arima Y, Araki S, Takashio S, Oda S, Misumi Y, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K	Prognostic value of left atrial strain in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail	8	5316-5326	2021
Maeda K, Kubota Y, Kitagawa S, Ueda M, Ando Y, Ito Y	The prostate as a good candidate organ for proving amyloid deposition in non-endemic late onset hereditary transthyretin amyloidosis: Report of two cases.	J Neurol Sci	424	117418	2021
Ohya Y, Tasaki M, Hayashida S, Katayama N, Tsuchida T, Kuriwaki K, Ueda M, Inomata Y	Carpal tunnel syndrome due to iatrogenic amyloidosis after domino liver transplantation from hereditary transthyretin amyloidosis: a case report.	Transplant Proc	53	1313-1316	2021
Okada M, Misumi Y, Masuda T, Takashio S, Tasaki M, Matsushita H, Ueda A, Inoue Y, Nomura T, Nakajima M, Yamashita T, Shinriki S, Matsui H, Tsujita K, Ando Y, Ueda M	Plasma growth differentiation factor 15: A novel tool to detect early changes of hereditary transthyretin amyloidosis.	ESC Heart Fail	8	1178-1185	2021
Tasaki M, Okada M, Yanagisawa A, Nomura T, Ueda A, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Miyamoto T, Obayashi K, Ando Y, Ueda M	Apolipoprotein AI amyloid deposits in the ligamentum flavum in patients with lumbar spinal canal stenosis.	Amyloid	28	107-112	2021
Tsukamoto Y, Tasaki M, Fujii H, Tsujie M, Ueda M	EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 amyloid incidentally found in surgically resected specimens of colon cancer: a case report emphasizing on an unrecognized type.	Amyloid	28	136-137	2021
Adams D, Polydefkis M, Gonzalez-Duarte A, Wixner J, Kristen A, Schmidt H, Berk J, López I, Dispenzieri A, Conceição I, Slama M, Gillmore J, Kyriakides T,	Long-term safety and efficacy of patisiran for hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: 12-month results of an open-label extension study.	Lancet Neurol	20	49-59	2021

Ajrout-Driss S, Waddington-Cruz M, Mezei M, Plante-Bordeneuve V, Attarian S, Mauricio E, Brannagan T, Ueda M, Aldinc E, Wang J, White M, Vest J, Berber E, Sweetser M, Coelho T					
Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Wechalekar AD, Jaccard A, Lee HC, Sancharawala V, Gibbs S, Mollee P, Venner CP, Lu J, Schönland S, Gatt ME, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Huart A, Dimopoulos MA, Bhutani D, Waxman AJ, Goodman SA, Zonder JA, Lam S, Song K, Hansen T, Manier S, Roeloffzen W, Jamroziak K, Kwok F, Shimazaki C, Kim JS, Crusoe E, Ahmadi T, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Schechter JM, Weiss BM, Zhuang SH, Vermeulen J, Merlini G, Comenzo RL; ANDROMEDA Trial Investigators	Daratumumab-based treatment for immunoglobulin light-chain amyloidosis.	N Engl J Med	385	46-58	2021
Takakuwa T, Yamamura R, Ohta K, Kaneko H, Imada K, Nakaya A, Fuchida SI, Shibayama H, Matsuda M, Shimazu Y, Adachi Y, Kosugi S, Uchiyama H, Tanaka H, Hanamoto H, Shimura Y, Kanda J, Onda Y, Uoshima N, Yagi H, Yoshihara S, Hino M, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Kanakura Y, Nomura S	Outcomes of ixazomib/lenalidomide/dexamethason e for multiple myeloma: A multicenter retrospective analysis.	Eur J Haematol	106(4)	555-562	2021
Takakuwa T, Ohta K, Nakatani E, Ito T, Kaneko H, Fuchida SI, Shimura Y, Yagi H,	Plateau is a prognostic factor of lenalidomide therapy for previously treated multiple myeloma.	Hematol Oncol	39(3)	349-357	2021

Shibayama H, Kanda J, Uchiyama H, Kosugi S, Tanaka H, Kawata E, Uoshima N, Ishikawa J, Shibano M, Karasuno T, Shindo M, Shimizu Y, Imada K, Kanakura Y, Kuroda J, Hino M, Nomura S, Takaori-Kondo A, Shimazaki C, Matsumura I					
Kawaji-Kanayama Y, Kobayashi T, Muramatsu A, Uchiyama H, Sasaki N, Uoshima N, Nakao M, Takahashi R, Shimura K, Kaneko H, Kiyota M, Wada K, Chinen Y, Hirakawa K, Fuchida SI, Shimazaki C, Matsumura-Kimoto Y, Mizutani S, Tsukamoto T, Shimura Y, Horiike S, Taniwaki M, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology Study Group (KOTOSG) Investigators	Prognostic impact of resistance to bortezomib and/or lenalidomide in carfilzomib-based therapies for relapsed/refractory multiple myeloma: The Kyoto Clinical Hematology Study Group, multicenter, pilot, prospective, observational study in Asian patients.	Cancer Rep (Hoboken)	14	e1476	2021
Nakaya A, Shibayama H, Nakatani E, Shimura Y, Kosugi S, Tanaka H, Fuchida S, Kanda J, Uoshima N, Kaneko H, Imada K, Ohta K, Ito T, Yagi H, Yoshihara S, Hino M, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Kanakura Y, Nomura S	Significance of maintenance therapy after HDT/ASCT in symptomatic multiple myeloma: A multicenter retrospective analysis in Kansai Myeloma Forum.	eJHem	2	765-773	2021
Katsuragawa-Taminishi Y, Ide D, Maegawa-Matsui S, Fuchida S, Hatsuse M, Murakami S, Kuroda J, Shimazaki C	Acquired amegakaryocytic thrombocytopenic purpura that presented as cyclic thrombocytopenia associated with anti-phospholipid antibody syndrome.	Clin Hematol Res	4	42-46	2021
Iida S, Ishikawa T, Min CK, Kim K, Yeh SP, Usmani SZ, Mateos M-V, Nahi H, Hueck C, Qin X, Parasrampur DA, Gries KS, Qi M, Bahlis N, Ito S	Subcutaneous daratumumab in Asian patients with heavily pretreated multiple myeloma: subgroup analyses of the noninferiority, phase 3 COLUMBA study.	Ann Hematol	100	1065-1077	2021
Iida S, Izumi T, Komeno T, Terui Y, Chou T, Ikeda T, Berg D, Fukunaga S, Sugiura K, Sasaki M	A phase 2, open-label, multicenter study of ixazomib plus lenalidomide and dexamethasone in adult Japanese patients with relapsed and/or	Int J Clin Oncol	27	224-233	2021

	refractory multiple myeloma.				
Ri M, Iida S, Maruyama D, Sakabe A, Kamei R, Nakashima T, Tohkn M, Osaga S, Tobinai K, Fukuhara N, Miyazaki K, Tsukamoto N, Tsujimura H, Yoshimitsu M, Miyamoto K, Tsukasaki K, Nagai H	HLA genotyping in Japanese patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1).	Cancer Sci	112	5011-5019	2021
Avet-Loiseau H, San-Miguel J, Casneuf T, Iida S, Lonial S, Usmani SZ, Spencer A, Moreau P, Plesner T, Weisel K, Ukropec J, Chiu C, Trivedi S, Amin H, Krevvata M, Ramaswami P, Qin X, Qi M, Sun S, Qi M, Kobos R, Bahlis NJ	Evaluation of sustained minimal residual disease negativity with daratumumab-combination regimens in relapsed/refractory multiple myeloma: analysis of POLLUX and CASTOR.	J Clin Oncol	39	1139-1149	2021
Cavo M, San-Miguel J, Usmani SZ, Weisel K, Dimopoulos MA, Avet-Loiseau H, Paiva B, Bahlis NJ, Plesner T, Hungria V, Moreau P, Mateos M-V, Perrot A, Iida S, Facon T, Kumar S, van de Donk NWCJ, Sonneveld P, Spencer A, Krevvata M, Heuck C, Wang J, Ukropec J, Kobos R, Sun S, Qi M, Munshi N	Prognostic value of minimal residual disease negativity in myeloma: combined analysis of POLLUX, CASTOR, ALCYONE, MAIA.	Blood	139	835-844	2022
Suzuki N, Okuyama T, Akechi T, Kusumoto S, Ri M, Inagaki A, Kayukawa S, Yano H, Yoshida T, Shiraga K, Hashimoto H, Aiki S, Iida S	Symptoms and health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma: a multicenter prospective cohort study.	Jpn J Clin Oncol	52	163-169	2022
飯田 真介	分子標的薬による MGRS の治療	腎と透析	92(2)	463-466	2022
Koike H, Nishi R, Ohyama K, Morozumi S, Kawagashira Y, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M	ANCA-associated vasculitic neuropathies: a review.	Neurol Ther	11(1)	21-38	2022

Koike H, Katsuno M	Paraproteinemia and neuropathy.	Neurol Sci	42(11)	4489-501	2021
Koike H, Iguchi Y, Sahashi K, Katsuno M	Significance of Oligomeric and Fibrillar Species in Amyloidosis: Insights into Pathophysiology and Treatment.	Molecules	26(16)	5091	2021
Koike H, Katsuno M	The Ultrastructure of Tissue Damage by Amyloid Fibrils.	Molecules	26(15)	4611	2021
Koike H, Katsuno M	The role of macrophages in Guillain-Barré syndrome and chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy.	Neurol Clin Neurosci	9(3)	203-10	2021
Koike H, Chiba A, Katsuno M	Emerging Infection, Vaccination, and Guillain-Barré Syndrome: A Review.	Neurol Ther	10(2)	523-37	2021
Koike H, Okumura T, Murohara T, Katsuno M	Multidisciplinary Approaches for Transthyretin Amyloidosis.	Cardiol Ther	10(2)	289-311	2021
Koike H, Katsuno M	Macrophages and Autoantibodies in Demyelinating Diseases.	Cells	10(4)	844	2021
Hsueh HW, Chao CC, Chang K, Jeng YM, Katsuno M, Koike H, Hsieh ST	Unique Phenotypes With Corresponding Pathology in Late-Onset Hereditary Transthyretin Amyloidosis of A97S vs. V30M.	Front Aging Neurosci	13	786322	2021
Jozuka R, Kimura H, Uematsu T, Fujigaki H, Yamamoto Y, Kobayashi M, Kawabata K, Koike H, Inada T, Saito K, Katsuno M, Ozaki N	Severe and long-lasting neuropsychiatric symptoms after mild respiratory symptoms caused by COVID-19: A case report.	Neuropsychopharmacol Rep	42(1)	114-119	2022
Sommer C, Carroll AS, Koike H, Katsuno M, Ort N, Sobue G, Vucic S, Spies JM, Doppler K, Kiernan MC	Nerve biopsy in acquired neuropathies.	J Peripher Nerv Syst	26 Suppl 2	S21-S41	2021
Oishi M, Mukaino A, Kunii M, Saito A, Arita Y, Koike H, Higuchi O, Maeda Y, Abiru N, Yamaguchi N, Kawano H, Tsuiki E, Tanaka T, Matsuo H, Katsuno M, Tanaka F, Tsujino A, Nakane S	Association between neurosarcoidosis with autonomic dysfunction and anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies.	J Neurol	268(11)	4265-79	2021

Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yamada S, Hashizume A, Katsuno M	Association of serum neurofilament light chain levels with clinicopathology of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy, including NF155 reactive patients.	J Neurol	268(10)	3835-44	2021
Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, Ito D, Kishimoto Y, Iida M, Koike H, Hirakawa A, Katsuno M	Ratio of urinary N-terminal titin fragment to urinary creatinine is a novel biomarker for amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	92(10)	1072-9	2021
Ando T, Nakamura R, Kuru S, Yokoi D, Atsuta N, Koike H, Suzuki M, Hara K, Iguchi Y, Harada Y, Yoshida Y, Hattori M, Murakami A, Noda S, Kimura S, Sone J, Nakamura T, Goto Y, Mano K, Okada H, Okuda S, Nishino I, Ogi T, Sobue G, Katsuno M	The wide-ranging clinical and genetic features in Japanese families with valosin-containing protein proteinopathy.	Neurobiol Aging	100	120.e1-120.e6	2021
小池 春樹	ANCA 関連血管炎における末梢神経病変	リウマチ科	66(6)	608-614	2021
小池 春樹	全身性疾患における神経障害	Clinical Neuroscience	39(10)	1286-1290	2021
小池 春樹	自己免疫性自律神経ニューロパチーの臨床像と治療法	脳神経内科	95(2)	172-176	2021
小池 春樹	純粋自律神経不全症型のレビー小体病と免疫介在性自律神経ニューロパチー	自律神経	58(2)	199-203	2021
仁紫 了爾, 小池 春樹, 勝野 雅央	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に伴う末梢神経障害	末梢神経	32(1)	68-74	2021
望月 秀樹, 青木 正志, 池中建介, 井上 治久, 岩坪 威, 宇川 義一, 岡澤 均, 小野 賢二郎, 小野 寺理, 北川 一夫, 齊藤 祐子, 下畑 享良, 高橋 良輔, 戸田 達史, 中原 仁, 松本 理器, 水澤 英洋, 三井 純, 村山 繁雄, 勝野 雅央, 青木 吉嗣, 石浦 浩之, 和泉 唯信, 小池 春樹, 島田 斉, 高橋 祐二,	脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言2020、総論	臨床神経学	61(11)	709-721	2021

徳田 隆彦, 中嶋 秀人, 波田 野琢, 三澤 園子, 渡辺 宏久, 水澤 英洋, 阿部 康二, 宇川 義一, 梶龍 兒, 亀井 聡, 神田 隆, 吉良 潤一, 楠進, 鈴木 則宏, 祖父江元, 高橋 良輔, 辻 省次, 中島 健二, 西澤 正豊, 服部 信孝, 福山 秀直, 峰松 一夫, 村山 繁雄, 望月 秀樹, 山田 正仁, 日本神経学会将来構想委員会					
Fujii H, Kono K, Goto S, Watanabe K, Nishii T, Kono A, Nishi S	Evaluation of Aortic Calcification Using a Three-Dimensional Volume-Rendering Method in Patients with Chronic Kidney Disease.	J Bone Miner Meta	39(3)	439-445	2021
西 慎一	指定難病 アミロイドーシスに対する対策.	腎臓内科	13(1)	77-85	2021
Mizuno H, Hoshino J, So M, Kogure Y, Fujii T, Ubara Y, Takaichi K, Nakaniwa T, Tanaka H, Kurisu G, Kametani F, Nakagawa M, Yoshinaga T, Sekijima Y, Higuchi K, Goto Y, Yazaki M	Dialysis-related amyloidosis associated with a novel β 2-microglobulin variant.	Amyloid	28(1)	42-49	2021
Hoshino J, Tsunoda R, Nagai K, Kai H, Saito C, Ito Y, Asahi K, Kondo M, Iseki K, Iseki C, Okada H, Kashihara N, Narita I, Wada T, Combe C, Pisoni RL, Robinson BM, Yamagata K	Comparison of annual eGFR decline among primary kidney diseases in patients with CKD G3b-5: results from a REACH-J CKD cohort study.	Clin Exp Nephrol	25(8)	902-910	2021
Hatano M, Kitajima I, Yamamoto S, Nakamura M, Isawa K, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y	Dialysis-related carpal tunnel syndrome in the past 40 years.	Clin Exp Nephrol	26(1)	68-74	2022
Fukuda M, Sawa N, Hoshino J, Ohashi K, Motoaki M, Ubara Y	Tocilizumab preserves renal function in rheumatoid arthritis with AA amyloidosis and end-stage kidney disease: Two case reports.	Clin Nephrol	95(1)	54-61	2021
花房 規男, 阿部 雅紀, 常喜 信彦, 星野 純一, 菊池 勘, 後藤 俊介, 神田 英一郎, 谷口 正智, 中井 滋, 長沼 俊秀, 長谷川 毅, 三浦 健一郎, 和田 篤志, 武	わが国の慢性透析療法の現況 (2020年12月31日現在)	透析会誌	54(12)	611-657	2021

本 佳昭					
Kamei R, Sawahata M, Yoshizumi N, Sata M, Nakayama M, Yamada T, Taniguchi N, Suzuki T, Bando M, Hagiwara K	Pulmonary mycobacterium avium complex disease complicated by cancer: an 11-year survey at a single center.	J Rural Med	16	72-76	2021
Futamura A, Hieda S, Mori Y, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Kasuga K, Murakami H, Ikeuchi T, Ono K	Cingulate Island Sign in Single Photon Emission Computed Tomography: Clinical Biomarker Correlations in Lewy Body Disease and Alzheimer's Disease.	J Alzheimers Dis	79	1003-1008	2021
Futamura A, Hieda S, Mori Y, Kasuga K, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Tsuji M, Ikeuchi T, Irie K, Ono K	Toxic amyloid- β_{42} conformer may accelerate the onset of Alzheimer's disease in the preclinical stage.	J Alzheimers Dis	80	639-646	2021
Hamaguchi T, Kim JH, Hasegawa A, Goto R, Sakai K, Ono K, Itoh Y, Yamada M	Exogenous A β seeds induce A β depositions in the blood vessels rather than the brain parenchyma, independently of A β strain-specific information.	Acta Neuropathol Commun	9	151	2021
Ibrahim NF, Hamezah HS, Yanagisawa D, Tsuji M, Kiuchi Y, Ono K, Tooyama I	The effect of α -tocopherol, α - and γ -tocotrienols on amyloid- β aggregation and disaggregation in vitro.	Biochem Biophys Rep	28	101131	2021
Kimura A, Tsuji M, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Tsuji Y, Umino M, Umino A, Nishikawa T, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Ono K	Myricetin prevents high molecular weight A β_{1-42} oligomer-induced neurotoxicity through antioxidant effects in cell membranes and mitochondria.	Free Radic Biol Med	171	232-244	2021
Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Kasai H, Yano S, Hieda S, Kasuga K, Ikeuchi T, Ono K	White Matter Lesions May Aid in Differentiating Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus and Alzheimer's Disease.	J Alzheimers Dis	85	851-862	2022
Mori Y, Tsuji M, Oguchi T, Kasuga K, Kimura A, Futamura A, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Hieda S, Kiuchi Y, Ikeuchi T, Ono K	Serum BDNF as a Potential Biomarker of Alzheimer's Disease: Verification Through Assessment of Serum, Cerebrospinal Fluid, and Medial Temporal Lobe Atrophy.	Front Neurol	12	653267	2021
Nakano H, Hamaguchi T, Ikeda T, Watanabe-Nakayama T, Ono K, Yamada M	Inactivation of seeding activity of amyloid β -protein aggregates in vitro.	J Neurochem	160	499-516	2022
Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Ikeda T, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M	Cerebrospinal fluid cytokines and metalloproteinases in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation.	Acta Neurol Scand	143	450-457	2021

Senda M, Ishii K, Ito K, Ikeuchi T, Matsuda H, Iwatsubo T, Iwata A, Ihara R, Suzuki K, Kasuga K, Ikari Y, Niimi Y, Arai H, Tamaoka A, Arahata Y, Itoh Y, Tachibana H, Ichimiya Y, Washizuka S, Odawara T, Ishii K, Ono K, Yokota T, Nakanishi A, Matsubara E, Mori H, Shimada H	A Japanese Multicenter Study on PET and Other Biomarkers for Subjects with Potential Preclinical and Prodromal Alzheimer's Disease.	J Prev Alzheimers Dis	8	495-502	2021
Ono K, Watanabe-Nakayama T	Aggregation and structure of amyloid β -protein.	Neurochem Int	151	105208	2021
Watanabe-Nakayama T, Ono K	Acquisition and processing of high-speed atomic force microscopy videos for single amyloid aggregate observation.	Methods	197	4-12	2022
小野 賢二郎	アルツハイマー病の病態と治療戦略を考える.	老年期認知症研究会誌	23	41-42	2021
小野 賢二郎	認知症診療の知 アルツハイマー病の疾患修飾療法の展望.	脳神経外科ジャーナル	30	840-844	2021
小野 賢二郎	認知症診療の現状と将来展望：A β を中心とするアプローチ.	神経治療学	38	343-346	2021
小野 賢二郎	認知症の Patient Journey を見つけた医療介入.	老年精神医学雑誌	32 増刊号	19-25	2022
杉本 あずさ, 小野 賢二郎	神経内科学のトピックス A β 凝集制御薬.	認知症の最新医療	11	18-23	2021
稗田 宗太郎, 小野 賢二郎	神経内科学のトピックス A β 免疫療法時代における高齢者タウオパチーの重要性.	認知症の最新医療	11	38-40	2021
稗田 宗太郎, 小野 賢二郎	認知症の治療の進歩.	神経治療学	38	343-346	2021
Takahashi M, Okamoto N, Nishida K, Nakaoka Y, Imai RI, Seki SI, Kubo T, Yamasaki N, Kitaoka H, Kubokawa SI, Kawai K, Hamashige N, Doi Y	Progressive deterioration of frailty is associated with poor outcomes in patients with transthyretin cardiac amyloidosis.	Geriatr Gerontol Int	21	967-969	2021

Ochi Y, Kubo T, Baba Y, Sugiura K, Ueda M, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Hamada T, Yamasaki N, Kitaoka H	Wild-Type Transthyretin Amyloidosis in Female Patients - Consideration of Sex Differences.	Cir rep	3(8)	465-471	2021
Sugiura K, Kozuki H, Ueba H, Kubo T, Ochi Y, Baba Y, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Yamasaki N, Wada N, Nakashima J, Murakami I, Ikeuchi M, Kitaoka H	Tenosynovial and Cardiac Transthyretin Amyloidosis in Japanese Patients Undergoing Carpal Tunnel Release.	Cir rep	3(6)	338-344	2021
中屋 雄太, 大木本 明義, 北岡 裕章	心アミロイドーシス患者の心肺運動負荷試験指標の特徴に関する実態調査	心臓	54(1)	51-57	2021
北岡 裕章	高齢者心不全と心アミロイドーシス.	老年内科	4(1)	57-64	2021
Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee HE, Russo E, Kubo T	^{99m} Technetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail	9(1)	1251-262	2022
Tahara N, Tahara A, Maeda S, Yoshimura H, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Nishino Y, Matsui T, Fukami A, Enomoto M, Adachi H, Fukumoto Y, Yamagishi SI	Increased urinary levels of pentosidine measured by a newly developed ELISA are independently correlated with fracture after fall.	Rejuvenation Res	24(6)	449-455	2021
Kawaguchi T, Honda A, Sugiyama Y, Nakano D, Tsutsumi T, Tahara N, Torimura T, Fukumoto Y	Association between the albumin-bilirubin (ALBI) score and severity of portopulmonary hypertension (PoPH): A data-mining analysis.	Hepatol Res	51(12)	1207-1218	2021
Sugiyama Y, Tahara N, Ueno T, Fukumoto Y	First remote-controlled robotic-enhanced balloon pulmonary angioplasty to chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Eur Heart J Case Rep	5(10)	ytab404	2021
Bekki M, Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Harada A, Hirakawa Y, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Ueno T	Switching from clopidogrel to prasugrel resolves vascular inflammation in patients receiving long-term aspirin plus clopidogrel therapy after coronary stent implantation.	J Nucl Cardiol	28(3):	1191-1192	2021
Honda A, Tahara N, Shojima T, Fukumoto Y	Multimodal imaging of quadricuspid aortic valve in elderly patient.	Eur Heart J Case Rep	5(9)	ytab344	2021

田原 宣広	炎症と動脈硬化	久留米醫學會雜誌	84(6・7)	205-217	2021
Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Ikura H, Fukuda K	Early Diagnosis of Amyloid Cardiomyopathy: Potential and Need Before the Onset of Decompensated Heart Failure.	JACC CardioOncol	3(2)	338	2021
Kitakata H, Endo J, Matsushima H, Yamamoto S, Ikura H, Hirai A, Koh S, Ichihara G, Hiraide T, Moriyama H, Shirakawa K, Goto S, Katsumata Y, Anzai A, Kataoka M, Tokuyama T, Ishido S, Yanagi S, Fukuda K, Sano M	MITOL/MARCH5 determines the susceptibility of cardiomyocytes to doxorubicin-induced ferroptosis by regulating GSH homeostasis.	J Mol Cell Cardiol	161	116-129	2021
Kitakata H, Endo J, Hashimoto S, Mizuno E, Moriyama H, Shirakawa K, Goto S, Katsumata Y, Fukuda K, Sano M	Imeglimin prevents heart failure with preserved ejection fraction by recovering the impaired unfolded protein response in mice subjected to cardiometabolic stress.	Biochem Biophys Res Commun	572	185-190	2021
Goto S, Mahara K, Beussink-Nelson L, Ikura H, Katsumata Y, Endo J, Gaggin HK, Shah SJ, Itabashi Y, MacRae CA, Deo RC	Artificial intelligence-enabled fully automated detection of cardiac amyloidosis using electrocardiograms and echocardiograms.	Nat Commun	12(1)	2726	2021
Miura K, Kimura M, Anzai A, Arai T, Kawakami T, Yuasa S, Hayashida K, Endo J, Tsuruta H, Itabashi Y, Kawamura A, Fukuda K, Kanazawa H	Predictors of New-Onset Atrial Tachyarrhythmias After Transcatheter Atrial Septal Defect Closure in Adults.	Heart Lung Circ	30(9)	1406-1413	2021
Sugiyama Y, Hakuno D, Yonemori K, Endo J, Sueyoshi K	Paraneoplastic rheumatic syndrome caused by left ventricular intimal sarcoma.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging	22(4)	e9	2021
Goto S, Ichihara G, Katsumata Y, Ko S, Anzai A, Shirakawa K, Endo J, Kataoka M, Moriyama H, Hiraide T, Kitakata H, Kobayashi T, Fukuda K, Sano M	Time-Series Transcriptome Analysis Reveals the miR-27a-5p-Ppm1l Axis as a New Pathway Regulating Macrophage Alternative Polarization After Myocardial Infarction.	Circ J	85(6)	929-938	2021
Shinya Y, Hiraide T, Momoi M, Goto S, Suzuki H, Katsumata Y, Kurebayashi Y, Endo J, Sano M, Fukuda K, Kosaki K, Kataoka M	TNFRSF13B c.226G>A (p.Gly76Ser) as a Novel Causative Mutation for Pulmonary Arterial Hypertension.	J Am Heart Assoc	10(5)	e019245	2021

Murata M, Kawakami T, Kataoka M, Moriyama H, Hiraide T, Kimura M, Endo J, Kohno T, Itabashi Y, Fukuda K	Clinical Significance of Guanylate Cyclase Stimulator, Riociguat, on Right Ventricular Functional Improvement in Patients with Pulmonary Hypertension.	Cardiolog	146(1)	130-136	2021
Kitakata H, Itabashi Y, Kanazawa H, Miura K, Kimura M, Shinada K, de Jongh MC, Endo J, Tsuruta H, Murata M, Kawamura A, Murata M, Fukuda K	Appropriate device selection for transcatheter atrial septal defect closure using three-dimensional transesophageal echocardiography.	Int J Cardiovasc Imaging	37(4)	1159-1168	2021
遠藤 仁	心アミロイドーシスの最新の治療	医学のあゆみ	277(5)	45-50	2021
Fukuda M, Sawa N, Hoshino J, Ohashi K, Motoaki M, Ubara Y	Tocilizumab preserves renal function in rheumatoid arthritis with AA amyloidosis and end-stage kidney disease: Two case reports.	Clin Nephrol	95(1)	54-61	2021
大橋 健一	アミロイドーシスの病理診断	診断病理	38(3)	226-239	2021
Harada T, Hiasa M, Teramachi J, Abe M	Myeloma-Bone Interaction: A Vicious Cycle via TAK1-PIM2 Signaling.	Cancers	13(17)	4441	2021
Hiasa M, Harada T, Eiji Tanaka, Abe M	Pathogenesis and treatment of multiple myeloma bone disease.	Jpn Dent Sci Rev	57	164-173	2021
Sumitani R, Hori T, Murai J, Kawata S, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Miki H, Kagawa K, Abe M, Nakamura S	Acute Myeloid Leukemia Developing with Acute Pancreatitis Mimicking Autoimmune Pancreatitis.	Intern Med	60(11)	1753-1757	2021
Takashi Y, Sawatsubashi S, Endo I, Ohnishi Y, Abe M, Matsuhisa M, Kawanami D, Matsumoto T, Fukumoto S	Skeletal FGFR1 signaling is necessary for regulation of serum phosphate level by FGF23 and normal life span.	Biochem Biophys Rep	27	101107	2021
Tanimoto K, Hiasa M, Tenshin H, Teramachi J, Oda A, Harada T, Higa Y, Sogabe K, Oura M, Sumitani R, Hara T, Itsuro Endo, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M	Mechanical unloading aggravates bone destruction and tumor expansion in myeloma.	Haematologica	107(3)	744-49	2021
Tenshin H, Teramachi J, Ashtar M, Hiasa M, Inoue Y, Oda A, Tanimoto K, Shimizu S,	TGF- β -activated kinase-1 inhibitor LL-Z1640-2 reduces joint inflammation and bone destruction in mouse models of rheumatoid arthritis	Clin Transl Immunology	11(1)	e1371	2022

Higa Y, Harada T, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Sebe M, Tsutsumi R, Sakaue H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M	by inhibiting NLRP3 inflammasome, TACE, TNF- α and RANKL expression.				
Takei M, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S, Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y	A Genome-Wide Association Study Predicts the Onset of Dysgeusia Due to Anti-cancer Drug Treatment.	Biol Pharm Bull	45(1)	114-117	2022
Fuchida S, Kawamura K, Sunami K, Tsukada N, Fujii S, Ohkawara H, Usuki K, Wake A, Endo S, Ishiyama K, Ueda Y, Nakamura Y, Miyamoto T, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Takamatsu H	Retrospective Analysis of Autologous Stem Cell Transplantation for AL Amyloidosis: A Study from the Multiple Myeloma Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	Transplant Cell Ther	28(2)	76-82	2022
Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Suzuki K, Bensinger W et al.	Daratumumab-Based Treatment for Immunoglobulin Light-Chain Amyloidosis.	N Engl J Med	385(1)	46-58	2021
Moreau P, Dimopoulos MA, Suzuki K, Risse ML, Martin T, et al.	Isatuximab, carfilzomib, and dexamethasone in relapsed multiple myeloma (IKEMA): a multicentre, open-label, randomised phase 3 trial.	Lancet	397 (10292)	2361-2371	2021
Knop S, Mateos MV, Dimopoulos MA, Suzuki K, Cavo M, et al.	Health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma ineligible for stem cell transplantation: results from the randomized phase III ALCYONE trial.	BMC Cancer	21(1)	659	2021
Quach H, Nooka A, Samoylova O, Suzuki K, Mateos MV, et al.	Carfilzomib, dexamethasone and daratumumab in relapsed or refractory multiple myeloma: results of the phase III study CANDOR by prior lines of therapy.	Br J Haematol	194(4)	784-788	2021
Hosen N, Yoshihara S, Suzuki K, Iida S, et al.	Expression of activated integrin $\beta 7$ in multiple myeloma patients.	Int J Hepatol	114(1)	3-7	2021
Matsumoto M, Suzuki K, Kuroda J, Iida S, et al.	Pembrolizumab plus pomalidomide and dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma (KEYNOTE-183): subgroup analysis in Japanese patients.	Int J Hematol	113(6)	777-784	2021
Plesner T, Dimopoulos MA, Suzuki K, Gries KS, et al.	Health-related quality of life in patients with relapsed or refractory multiple myeloma: treatment with daratumumab, lenalidomide, and dexamethasone in the phase 3 POLLUX trial.	Br J Haematol	194(1)	132-139	2021

Facon T, Venner CP, Suzuki K, RajkumarSV, et al.	Oral ixazomib, lenalidomide, and dexamethasone for transplant-ineligible patients with newly diagnosed multiple myeloma.	Blood	137(26)	3616-3628	2021
Suzuki K, Sunami K, Matsumoto M, Shimizu K, et al.	Phase II, Multicenter, Single-Arm, Open-Label Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Panobinostat in Combination with Bortezomib and Dexamethasone in Japanese Patients with Relapsed or Relapsed-and-Refractory Multiple Myeloma.	Acta Haematol	144(3)	264-274	2021
Chari A, Rodriguez-Otero P, McCarthy H, Suzuki K, Touzeau C, et al.	Subcutaneous daratumumab plus standard treatment regimens in patients with multiple myeloma across lines of therapy (PLEIADES): an open-label Phase II study.	Br J Haematol	192(5)	869-878	2021
Luo MM, Usmani SZ, Mateos MV, Suzuki K, Parasrampur DA, et al.	Exposure-Response and Population Pharmacokinetic Analyses of a Novel Subcutaneous Formulation of Daratumumab Administered to Multiple Myeloma Patients.	J Clin Pharmacol	61(5)	614-627	2021
Takezako N, Shibayama H, Suzuki K, Iida S, et al.	Once-weekly vs. twice-weekly carfilzomib dosing in a subgroup of Japanese relapsed and refractory multiple myeloma patients from a randomized phase 3 trial (A.R.R.O.W.) and comparison with ENDEAVOR.	Int J Hematol	113(2)	219-230	2021
Sato K, Okazuka K, Ishida T, Sakamoto J, Kaneko S, Nashimoto J, Uto Y, Ogura M, Yoshiki Y, Abe Y, Maeda A, Hamazaki H, Tsukada N, Hiragohri Y, Suzuki K	Minimal residual disease detection in multiple myeloma: comparison between BML single-tube 10-color multiparameter flow cytometry and EuroFlow multiparameter flow cytometry.	Ann Hematol	100(12)	2989-2995	2021
Suzuki K, et al.	Carfilzomib, dexamethasone, and daratumumab in Asian patients with relapsed or refractory multiple myeloma: post hoc subgroup analysis of the phase 3 CANDOR trial.	Int J Hematol	114(6)	653-663	2021
Mateos MV, Dimopoulos MA, Cavo M, Suzuki K, et al.	Daratumumab Plus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone Versus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone in Transplant-Ineligible Newly Diagnosed Multiple Myeloma: Frailty Subgroup Analysis of ALCYONE.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk	21(11)	785-798	2021
Kimura K, Tsukamoto S, Miyazaki K, Kawajiri-Manako C, Ishii A, Rahmutulla B, Fukuyo M, Oshima-Hasegawa N, Mitsukawa S, Takeda Y,	Identification of clonal immunoglobulin λ light-chain gene rearrangements in AL amyloidosis using next-generation sequencing.	Exp Hematol	101-102	34-41.e4	2021

Mimura N, Takeuchi M, Ohwada C, Iseki T, Matsusaka K, Sanada M, Yokote K, Kaneda A, Ishida T, Suzuki K, et al.					
Fujimoto Y, Ueno S, Oda K, Gunda N, Shimomura Y, Nishimura Y, Yamaguchi A, Kuwano A, Ito Y, Baba Y, Nishigaki A, Michiwaki N, Uchino S, Kurogi K, Kawano Y, Matsuoka M, Saito H, Okuno Y, Jono H	Relationship between serum bortezomib concentration and emergence of diarrhea in patients with multiple myeloma and/or AL amyloidosis.	Cancers	13(22)	5674	2021
Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Nitami S, Narita I	Comparison of muscle strength between hemodialysis patients and non-dialysis patients with chronic kidney disease.	J Phys Ther Sci	33(10)	742-747	2021
Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Nitami S, Narita I	Fear of falling and physical activity in hemodialysis patients: a pilot study.	Renal Replace Ther	7	63	2021
Kitabayashi K, Yamamoto S, Katano Y, Giustini K, Ei I, Ishii Y, Narita I	Locomotive Syndrome in Hemodialysis Patients and its Association with Quality of Life – A Cross-Sectional Study –	Renal Replace Ther	7	36	2021
Yamamoto S, Sasahara K, Domon M, Yamaguchi K, Ito T, Goto S, Goto Y, Narita I	pH-Dependent Protein Binding Properties of Uremic Toxins In Vitro.	Toxins (Basel)	13(2)	116	2021
Komaba H, Zhao J, Yamamoto S, Nomura T, Fuller DS, McCullough KP, Evenepoel P, Christensson A, Zhao X, Alrukhaimi M, Al-Ali F, Young EW, Robinson BM, Fukagawa M	Secondary hyperparathyroidism, weight loss, and longer term mortality in haemodialysis patients: results from the DOPPS.	J Cachexia Sarcopenia Muscle	12(4)	855-865	2021
Wakamatsu T, Iwasaki Y, Yamamoto S, Matsuo K, Goto S, Narita I, Kazama JJ, Tanaka K, Ito A, Ozasa R, Nakano T, Miyakoshi C, Onishi Y, Fukuma S, Fukuhara S, Yamato H, Fukagawa M, Akizawa T	Type I Angiotensin II Receptor Blockade Reduces Uremia-Induced Deterioration of Bone Material Properties.	J Bone Miner Res	36(1)	67-79	2021
Sakai K, Yamada M	Cerebral amyloid angiopathy-related inflammation and dementia.	Clin Exp Neuroimmunol	12	101-106	2021

Yamaguchi H, Kawahara H, Kodera N, Kumaki A, Tada Y, Sakai K, Ono K, Yamada M, Hanayama R	Extracellular vesicles contribute to the metabolism of transthyretin amyloid in hereditary transthyretin amyloidosis.	Front Mol Biosci	9	839917	2022
坂井 健二, 濱口 毅, 山田 正仁	臨床医のための神経病理再入門 脳アミロイドアンギオパチー.	Clinical Neuroscience	39	132-134	2021
坂井 健二, 山田 正仁	脳アミロイドアンギオパチー関連 炎症・血管炎.	BRAIN NERVE	73	489-495	2021

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人福井大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 上田 孝典

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名 学術研究院医学系部門 教授
(氏名・フリガナ) 内木 宏延 (ナイキ ヒロノブ))

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学、福井大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 長崎国際大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 安東 由喜雄

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 薬学部 教授

(氏名・フリガナ) 安東 由喜雄 アンドウ ユキオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年 3月28日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人信州大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 中村 宗一郎 (公印省略)

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部 ・ 教授

(氏名・フリガナ) 関島 良樹 ・ セキジマ ヨシキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月18日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 熊本大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 小川 久雄

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院生命科学研究部・教授

(氏名・フリガナ) 植田 光晴・ウエダ ミツハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学、京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人地域医療機能推進機構京都鞍馬口医療センター

所属研究機関長 職名 院長

氏名 島崎 千尋

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医局・院長

(氏名・フリガナ) 島崎 千尋・シマザキ チヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人 名古屋市立大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 郡 健二郎

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医薬学総合研究院 (医学)・教授

(氏名・フリガナ) 飯田 真介・イイダ シンスケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立大学法人 京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4 年 4 月 1 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東海国立大学機構

所属研究機関長 職 名 名古屋大学大学院医学系研究科長

氏 名 木村 宏

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 名古屋大学大学院医学系研究科・准教授

(氏名・フリガナ) 小池 春樹・コイケ ハルキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 4月 22日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人神戸大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 藤澤 正人

次の職員の令和 3 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究科・教授

(氏名・フリガナ) 西 慎一・ニシ シンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学臨床研究審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 虎の門病院

所属研究機関長 職名 院長

氏名 門脇 孝_____

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 腎センター内科 部長

(氏名・フリガナ) 星野 純一

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	日本透析医学会倫理委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年3月25日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 自治医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 永井良三

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部 ・ 教授

(氏名・フリガナ) 山田 俊幸 (ヤマダ トシユキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 道後温泉病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 奥田 恭章

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 内科・院長

(氏名・フリガナ) 奥田 恭章 (オクダ ヤスアキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 検討、作成中)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 福井大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人金沢大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 和田 隆志

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医薬保健研究域医学系・教授

(氏名・フリガナ) 小野 賢二郎 (オノ ケンジロウ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	金沢大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年2月15日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 高知大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 櫻井 克年

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 教育研究部医療学系臨床医学部門・教授

(氏名・フリガナ) 北岡 裕章・キタオカ ヒロアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 久留米大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 内村 直尚

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 循環器病センター・教授

(氏名・フリガナ) 田原 宣広・タハラ ノブヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	久留米大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 慶應義塾大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 伊藤 公平

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・専任講師

(氏名・フリガナ) 遠藤 仁 (エンドウ ジン)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学大学院医学研究科・ 医学部 医の倫理委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4 年 1 月 1 1 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東京医科歯科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 田 中 雄 二 郎

次の職員の令和3年度 厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯学総合研究科 ・ 教授

(氏名・フリガナ) 大橋 健一 ・ オオハシ ケンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京医科歯科大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4 年 3 月 25 日

国立保健医療科学院長 殿

国立研究開発法人
機関名 国立循環器病研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 大津 欣也

次の職員の令和 3 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院病理部・部長

(氏名・フリガナ) 畠山 金太・ハタケヤマ キンタ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福井大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 徳島大学

所属研究機関長 職 名 学 長

氏 名 河 村 保 彦

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯薬学研究部・教授

(氏名・フリガナ) 安倍 正博・アベ マサヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	徳島大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 日本赤十字社医療センター

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 本間 之夫

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 骨髄腫アミロイドーシスセンター・顧問
(氏名・フリガナ) 鈴木 憲史・スズキ ケンシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	日本赤十字社医療センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 熊本大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 小川 久雄

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院生命科学研究部・助教
(氏名・フリガナ) 河野 和 ・ カワノ ヤワラ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 4年 3月23日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人新潟大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 牛木 辰男

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 血液浄化療法部 准教授

(氏名・フリガナ) 山本卓 ヤマモトスグル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和4年4月1日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人金沢大学

所属研究機関長 職 名 学 長

氏 名 和田 隆志

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 附属病院・講師

(氏名・フリガナ) 坂井 健二 (サカイ ケンジ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	金沢大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。